

名古屋大学小児科臨床研修プログラム
名古屋大学小児科研修医（専攻医）プログラム

2025 年度版

はじめに

名古屋大学小児科に入局し、名古屋大学小児科関連施設にて小児科臨床研修を行う医師が効率的かつ円滑な小児科臨床研修を行えるよう「名古屋大学小児科臨床研修プログラム」を作成した。本プログラムを利用して、有意義な小児科臨床研修に臨んでいただきたい。

なお、小児科専門医の取得には日本小児科学会の会員歴が必要であるため、速やかに入会することを勧める。日本小児科学会入会については、日本小児科学会のホームページ

(<http://www.jpeds.or.jp/>) を、名古屋大学小児科入局については名古屋大学小児科のホームページ (<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/ped/>) を参考にしていきたい。

2005 年 1 月

名古屋大学大学院 小児科学教室

名古屋大学小児科臨床研修を考えるワーキンググループ

2025 年度版の改訂にあたり

2005 年に「名古屋大学小児科臨床研修プログラム」が整備された当初から、本プログラムには小児科各分野のサブスペシャリティー技能習得ができるように各分野のキャリアパスが記載されていた。しかしながら、名古屋大学小児科とその関連施設だけでは、必要十分な小児科サブスペシャリティーの研修提供することは容易ではないため、「愛知県四大学小児科・合同研修プログラム」のもと県内の施設で専門研修が完結できる体制を整えた。また、2017 年度から始まった新専門医制度を踏まえて「名古屋大学医学部附属病院小児科研修医（専攻医）プログラム」を加えるなど、毎年ブラッシュアップを行っている。本プログラムを利用することで、小児科専門医取得から小児科各分野のサブスペシャリティー技能習得ができるよりよい研修が行えることであろう。

2025 年 4 月

名古屋大学大学院医学系研究科 小児科学／成長発達医学

名古屋大学小児科 卒後研修委員会

第一部：名古屋大学小児科臨床研修プログラム

目次

I.	名古屋大学小児科の一般目標	-----	1
II.	名古屋大学小児科臨床研修プログラムの目的	-----	1
III.	名古屋大学小児科臨床研修プログラムの管理運営	-----	1
IV.	小児科臨床研修について	-----	2
	1) 標準的な小児科臨床研修コース	-----	2
	2) 定期的に行われる教育関連行事	-----	3
	① 新入局者オリエンテーション	-----	3
	② 木曜会	-----	3
	③ 名古屋大学小児科関連病院新生児カンファレンス	-----	4
	④ 初心者向け勉強会	-----	4
	⑤ 小児集中治療勉強会	-----	4
	⑥ 東海小児神経研究会	-----	5
	3) 名大病院研修について	-----	5
	・ 研修時期・研修期間	-----	5
	・ 研修方法	-----	5
	・ 学会発表	-----	5
	・ 名大病院研修における主な教育関連行事	-----	5
	・ 各診療グループの診療の特徴について	-----	6
	・ 各診療グループの症例検討会、勉強会などのスケジュール	-----	8
V.	経験するべき症候・疾患	-----	9
VI.	研修の自己評価、指導医評価	-----	9
VII.	専門医取得プログラム	-----	9
	① 小児科専門医制度	-----	10
	② 小児科各分野関連の専門医（認定医）制度について	-----	11
	日本血液学会	-----	12
	日本造血・免疫細胞療法学会	-----	13
	日本小児血液・がん学会	-----	14
	日本アレルギー学会	-----	16

日本感染症学会	-----	19
日本小児感染症学会	-----	20
日本小児神経学会	-----	20
日本周産期・新生児医学会	-----	23
日本小児循環器学会	-----	26
日本小児腎臓学会	-----	30
日本小児内分泌学会	-----	31
日本小児心身医学会 日本小児精神神経学会 日本児童青年精神医学会		
日本思春期青年期精神医学会	-----	33
日本小児臨床薬理学会	-----	35
日本小児遺伝学会 日本人類遺伝学会 日本遺伝カウンセリング学会		
	-----	35
日本小児東洋医学会	-----	37
日本小児救急医学会	-----	38
日本小児リウマチ学会	-----	38
日本てんかん学会	-----	39
日本臨床神経生理学会	-----	41
日本透析医学会	-----	41
日本移植学会	-----	42
日本臨床腎移植学会	-----	43
ICD (Infection Control Doctor)	-----	44
日本臨床腫瘍学会	-----	45
日本集中治療医学会	-----	45
日本小児栄養消化器肝臓学会	-----	46
 VIII. サブスペシャリティー技能習得について	 -----	 47
血液・腫瘍分野	-----	48
アレルギー分野	-----	49
感染症分野	-----	50
神経分野	-----	50

周産期・新生児分野	-----	51
免疫分野	-----	52
循環器分野	-----	52
腎臓分野	-----	52
内分泌分野	-----	53
代謝分野	-----	53
遺伝分野	-----	53
小児救急・集中治療分野	-----	54
子どものこころ診療分野	-----	54

名古屋大学小児科臨床研修プログラム

I. 名古屋大学小児科の一般目標

- ・幅広く小児医療・小児保健に貢献するために、すぐれた小児科医を育成し、地域の小児医療の充実を図り、小児医学の進歩に寄与する。
- ・一般目標の実現を目指して以下の事を実践する。
 - 1) 幅広い臨床能力を持つ小児科医を育成する。これからの小児科医は、出生前から成人に至る全課程を総合的にとらえ、成育医療の視点に立った医療の実践を心掛ける。
 - 2) 大学附属病院、関連病院が一体となり、各分野における最高水準の先端医療を推進するとともに、それにあたる人材の育成、確保に努める。
 - 3) 明日の医学を創り出すのに必要な情報を世界に発信するとともに、研究能力を有する人材を確保する。
 - 4) 社会に対し、小児医療、小児保健の重要性を訴え、さらに小児科医の社会的地位の向上に努める。
 - 5) 3つの使命である、教育、診療、研究の推進について国内の他施設と協調し、さらにグローバルな視点にたち、国際交流を図る。

II. 名古屋大学小児科臨床研修プログラムの目的

- ・本プログラムは上記の「名古屋大学小児科の一般目標」の実践を目指すために作成された臨床研修プログラムである。
- ・小児科医として幅広い臨床経験を積み、小児科診療の基礎的知識・手技を習得し、小児科専門医を取得するための効率よい臨床研修を提供する。
- ・小児科専門医を取得後に、各分野専門医取得のための研修に速やかに移行できるように、各専門分野の専門医取得についての情報を同時に提供する。
- ・小児科臨床研修を通じて、臨床医としての基本的姿勢、病児とその家族に接する態度を習得できるようにする。

III. 名古屋大学小児科臨床研修プログラムの管理運営

- ・本プログラムの管理責任者は名古屋大学大学院小児科学教授とする。
- ・関連病院部長会などを通して、定期的に本プログラムの研修内容評価、再検討をおこなう。
- ・専門医関連の情報については、1年に1回の更新をおこなう。
- ・本プログラムの修正、訂正などは、名古屋大学小児科卒後研修委員会を中心に作業を行う。

IV. 小児科臨床研修について

1) 標準的な小児科臨床研修コース

卒後 3～5 年目 ↓		卒後 5～6 年目 ↓	
初期研修) 2 年間	原則的に初期研修を行った病院にて、小児科専攻医プログラムに沿って小児科専門研修を行う。 ただし状況に応じて、複数の病院で小児科研修を行う場合もある。	名 大 病 院 研 修	関連施設内の一般病院への赴任 関連施設内の専門施設への赴任 大学院入学 関連施設外の国内研修 各分野専門医取得
	初期研修を行った病院とは異なる病院へ異動した場合も、原則的に上記と同様の小児科専門研修を行う。		

- ・ 卒後 2 年間は各研修病院の初期研修プログラムに沿い、ローテート研修を行う。
- ・ ローテート研修終了後は、原則的に研修病院の小児科にて小児科専門研修を開始する。小児科専門研修に適していない病院である場合は、異動を考慮する。
- ・ 原則的に新生児研修は必須とする。研修中に新生児研修が行えない場合は必要に応じて異動を考慮する。
- ・ 原則的に卒後 5～6 年目に、名古屋大学医学部附属病院小児科にて研修（以下、名大病院研修）を行う。名大病院研修についての研修内容については別に記す。
- ・ 名大研修後に大学院入学、小児病院などへの国内研修をとるコースも設けるが、ある基準を設けて、その個人を評価しその上で許可をする事を条件とする。
- ・ 女性医師が出産・育児にあたり小児科医としてのキャリアがとぎれることがないよう、名古屋大学小児科医局では関連病院と協力をして「子育て支援制度」を設立し、運用をしている。詳細は管理責任者の副医局長に問い合わせいただきたい。
- ・ 愛知県内の四大学小児科が協力をして、「愛知県四大学小児科・合同研修プログラム」を作成し、各専門分野の研修を行う体制を整えた。詳細は医局長に問い合わせいただきたい。
- ・ 2018 年からの新しい専門医制度に基づいた名古屋大学医学部附属病院小児科研修医（専攻医）プログラム（第二部参照）では、卒後 3～5 年の 3 年間の研修期間の内、卒後 5 年目に名大病院で 6 カ月間の研修を行うこととしている。
- ・ なお、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、安城更生病院、名古屋記念病

院、岡崎市民病院、公立陶生病院、あいち小児保健医療総合センターの各病院では、独自の小児科研修医（専攻医）プログラムを有している。詳細については、各病院に照会されたい。

2) 定期的に行われる教育関連行事

① 新入局者オリエンテーション

新入局者を対象に研修会を開催する。オリエンテーションでは小児科各グループから基礎的講義をおこなう。

「新入局者オリエンテーション」の実例（2024 年度実施）

日 時：2024 年 6 月 15 日（土）

場 所：KKR ホテル名古屋（愛知県名古屋市中区三の丸 1-5-1）

時 間	講 師	内 容
09：30～11：00	梶田光春先生	代謝
	八田容理子先生	内分泌
	多代篤史先生	腎臓
11：10～12：10	伊藤浩明先生	アレルギー
	池山由紀先生	救急・集中治療
13：00～13：50	中田智彦先生	医系技官
	鳥居ゆか先生	感染症
14：00～15：00	村松友佳子先生	染色体・遺伝
	三浦清邦先生	障がい児
15：30～16：30	大橋直樹先生	循環器
	佐藤義朗先生	新生児
16：40～17：40	夏目淳先生	神経
	高橋義行先生	血液・腫瘍

② 木曜会

関連病院から治療、診断に難渋している症例、希少疾患、若手医師の教育上有益と思われる症例を自由にもちよるインフォーマルな症例検討会で、隔月、木曜日の夕刻に web 開催（名古屋大学小児科医局から配信）で行われる。なお、名古屋大学医学部附属病院に入院した症例の紹介もおこなう。

「木曜会」の実例

場 所：名古屋大学小児科医局

2020 年度からは主に Zoom[®]による web 開催

症 例：

- ・10歳で変声、腋毛・恥毛がみられた男児例
- ・すっきりしない ITP
- ・急性虫垂炎診断時に気管支拡張所見を認めた1例
- ・急に歩かなくなったために受診した1歳6か月男児例
- ・COVID-19 に続発する多系統炎症性症候群の女児に対する治療と短期経過

③ 名古屋大学小児科関連病院新生児カンファレンス

関連病院臨床症例検討会と同様に毎回1つの新生児領域におけるテーマを決め、その疾患・病態について議論を深めている。年に1回開催されている。

*2020年度以降は学内及び院内の活動指針状況に応じて開催されている。

「名古屋大学小児科関連病院新生児カンファレンス」の2024年度実施分

テーマ： わがNICUでの治療管理の工夫 ～こんなことに気を付けています～

世話人： 日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

④ 初心者向け勉強会

医学生や若手医師を対象とした教育プログラムである。小児科の各分野の基本的な知識を中心にレクチャーを行う。年に2回開催されている。

2024年度実施分

「こどもの診療の進め方 ～さあ、まずは何をしようか～」

「こどもの発熱 ～ほんとにただの風邪？～」

「こどもの腹痛 ～たかが腹痛、されど腹痛～」

~~⑤ 小児集中治療勉強会~~

⑤ 卒後研修セミナー

若手～中堅医師を対象とした教育プログラムである。小児科の各分野の専門的な知識を中心にレクチャーを行う。年に1回開催されている。

2024年度実施分

「こどもの脂質異常のみかた ～鑑別からフォローアップまで～」

⑥ 東海小児神経研究会

2 か月に 1 回、愛知県の四大学および関連病院の医師が小児神経疾患の症例をもちより、2020 年度からは主に Zoom[®]による web 開催で行っている。

3) 名大病院研修について

小児科臨床研修の中で名大病院研修を行う意義は、大学教員・医員・大学院生とのつながり（縦のつながり）と同世代のつながり（横のつながり）を形成することと、各研修病院間の治療の標準化を図ること、国際化への導入、研究への導入である。また、研修病院で経験できなかった症例を経験して、小児科専門医取得のための研修を補完することも目的の 1 つである。短い研修期間であるが、有意義な研修であると確信している。

- ・ 研修時期・研修期間：

原則として卒後4～5年（小児科医として3～4年目）に、6か月間おこなう。

2017 年度から開始になる、新しい専門医制度に基づいた名古屋大学医学部附属病院小児科研修医（専攻医）プログラム（第二部参照）では、卒後 5 年目に名大病院で 6 か月間の研修を行うこととしている。

- ・ 研修方法：

A グループ（血液・腫瘍）、B グループ（神経、感染症、循環器）、C グループ（新生児）の各診療グループをローテーションする形式をとる。各グループのローテーションの期間は、研修病院における研修内容を考慮して決定する。

EMICU（救急・内科系集中治療室）での 1 か月間の研修が組み込まれる場合もある。また、希望する病院における学外研修も行っている。

- ・ 学会発表：

研修期間中に、日本小児科学会東海地方会をはじめ、各分野の学会、研究会にて研究発表、症例報告をおこなう。

- ・ 名大病院研修における主な教育関連行事：

- ① 新入院患者プレゼンテーション/教授回診

毎週木曜日の午後1時から医局で、1週間の新入院患者の症例提示をおこない、その後小児内科病棟（5E/5WまたはNICU）の教授回診をおこなう。これらを通じて、「症例提示の技術向上」と「各研修病院における治療の違いの標準化」を行う。また、外国人留学生、外国人研修生が参加する場合は、英語による症例提示、討論をおこない、国際化に対応できる小児科医の育成を行っている。

- ② 医局抄読会

教員と大学院生が中心となり、Science、Nature、Cellに掲載されている論文の抄読会を1か月に1回おこなっており、各分野のトピックスについての知識を深め、基礎研究へのexposureを図る。

- ③ 関連病院臨床研究

「関連病院臨床研究ワーキンググループ」が中心となり、日常診療で比較的良好に診る疾病を対象とした臨床研究を立ち上げている。研修期間中にワーキンググループに参加をして、臨床研究の企画、運営についての方法論を習得する。

④ 大学院研究発表会

大学院重点化後は大学院生が小児科医局の半数以上を占め、学外を含め研究活動を行っている。これら大学院生の研究の進行状況および各研究室間での情報交換を目的として、2か月に1回大学院研究報告会を行っている。大学院生は各自の研究の背景、方法論、研究過程について関連病院の医局員を含む公開の場で研究発表をおこなう。

⑤ 教員研究発表会

名古屋大学小児科には小児科各領域の専門家が教員として在籍している。各教員の研究内容を報告することで、医局員全体に各分野の研究の動向を紹介し、知識の共有をはかっている。

・ 各診療グループの診療の特徴について

<血液研究室>

再生不良性貧血や白血病／悪性リンパ腫といった血液疾患に加えて神経芽腫やウィルムス腫瘍などの小児がんを中心に診療を行っている。名大病院は2013年に「小児がん拠点病院」に指定され、その後も継続して指定を受けている。常時60－65例が入院治療をうけており、集学的治療を目指し、化学療法や造血幹細胞移植をおこなっている。日本造血・免疫細胞療学会の全国調査によれば、2021年の名大小児科における移植症例数は33例で、全国の小児科では第6位、大学病院では第2位であった。また、日本小児血液・がん学会の疾患登録において、2015年の名大小児科における悪性血液疾患と固形腫瘍の新患数は51例で、全国で第6位、大学病院では最多であった。小児がん拠点病院の指定により、固形腫瘍の紹介症例が増えており、特に神経芽腫・脳腫瘍の新患は全国的にも上位である。これらの豊富な臨床例や全国から送付されてくる臨床検体を用いて、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群、白血病、神経芽腫の免疫学的、あるいは遺伝子解析を中心に分子生物学的研究をおこなっている。また、名大病院が、「臨床研究中核病院」「革新的医療技術創出拠点」に指定されており、当研究室でもウイルス特異的細胞障害性T細胞やキメラ抗原受容体遺伝子導入T細胞（CAR-T細胞）療法といった新規免疫細胞療法の開発、臨床試験を行っている。名大病院は2018年に「がんゲノム医療中核拠点病院」にも指定されており、当研究室では小児領域でのゲノム医療を一層進めている。

<感染症研究室>

難治性ウイルス疾患（慢性活動性EBウイルス感染症、先天性CMV感染症など）の

治療と肝炎（特にウイルス性）に対する診断（肝生検）、治療（インターフェロン、直接作用型抗ウイルス薬）を中心とした診療を行っている。また、様々なウイルス感染症の遺伝子診断を行っており、特に臓器移植患者（生体肝移植症例）、造血幹細胞移植患者に対するウイルスモニタリングシステムと早期治療システムに長年取り組んでいる。

<神経研究室>

外来患者では難治てんかんの症例が圧倒的に多く、一般病院の患者層とは著しく異なっている。入院患者は乳児てんかん性スパズム症候群などのACTH療法や重症筋無力症、Guillain-Barre症候群などの診断、治療も行っている。また、市中病院では実施が難しい精密な神経生理学的検査を施行している。特に、発作時ビデオ脳波同時記録は年間100～200例程の実績がある。画像検査では、PET検査や3テスラMRIなど一般病院では施行が難しい検査を行って小児神経疾患の画像異常を評価している。臨床教育面では、小児脳波および新生児脳波が判読できるように指導をしている。毎週木曜朝に行っている画像カンファレンスは若手医師に好評で、神経画像の理解を深めるのに役立っている。毎月1回、木曜の午後には新生児グループと合同で新生児の頭部画像の検討を行っている。

<新生児研究室>

集学的周産期医療が必要な症例が多く、胎児診断がついている先天性横隔膜ヘルニアや胎児水腫などの症例を産科とともに胎児期から管理をしている。特に先天性横隔膜ヘルニアには力をいれており、国内ではトップレベルの症例数と治療成績である。また、早産児のみならず、小児外科症例、重症の未熟児網膜症症例など多彩な疾患を研修することができる。

<免疫研究室>

本研究室では詳細な免疫検査や遺伝子診断を行うことが可能である。自ら行うことにより、迅速に結果を得ることができ、外来患者、病棟患者の診断及び治療に役立っている。また、本邦においての先天性免疫異常症の診断、治療、研究はパイオニア的存在であり、症例の集積は国内ではトップレベルである。臨床診断、遺伝子診断、治療と一貫して行える国内でも数少ない施設の1つである。

<循環器研究室>

主として先天性心疾患の診断やフォロー、他科の手術における周術期管理、胎児心エコー、成人先天性心疾患の診療などを行っている。先天性心疾患児の中には心疾患以外の合併症をもつ場合もあるため、他科や他施設との共同で効果的な医療を行うように努めている。また、特発性、肝疾患関連、新生児肺疾患関連の肺高血圧症には力を入れている。近年増加傾向にある成人先天性心疾患については小児科のみまたは循環器内科のみの診療では不足する点もあり、循環器内科、胸部外科と合同カンファレンスを行い、心臓カテーテル検査も合同で行って方針を決定している。

令和5年度から「小児循環器センター」が稼働し、心臓血管外科と連携し先天性心疾患の手術を段階的に開始した。令和5年度は、青年と学童後半を手術対象とし、令和6年度は学童前半→幼児→乳児へ手術対象を拡大して、さらに令和7年度からは新生児に手術対象を拡大する予定で、令和9年度にフル稼働を目指している。

<EMICU>

院内の救急・内科系集中治療室の勤務体制に従って、交代勤務（日勤あるいは夜勤の2交代）に従事する。小児患者は年間約20-30例程度の入室があるが、成人患者の管理も求められる。この勤務は、認定施設への専従勤務歴として計算される。

- ・成人を中心とした集中管理を経験すること、
 - ・成人を対象として施行されている管理技術を習得すること、
 - ・成人を対象とした治療手技を小児に応用できるか考察すること、
 - ・小児患者に対して、治療の中心的役割を果たすこと、
- を目標とする。

- ・各診療グループの症例検討会、勉強会などのスケジュール

<血液研究室>

症例検討会：毎週火曜日（午後4時30分～）

研究カンファレンス：毎週火曜日（午後7時30分～）

血液標本検討会：毎週火曜日（午後3時30分～4時30分）

抄読会：毎週火曜日（午前7時45分～）

毎週水曜日（午前7時45分～）

毎週木曜日（午前7時45分～）総説論文

<感染症研究室>

症例検討会：毎週月曜日（午後6時00分～）

抄読会：毎週月曜日（午後7時00分～）

<神経研究室>

病棟カンファレンス：毎週月曜日（午後4時00分～）

抄読会：毎週月曜日（午後5時30分～）

新生児脳波検討：毎週月曜日（午後6時00分～）

新生児画像判読：毎月1回木曜日（午後4時00分～）

画像判読：毎週木曜日（午前8時00分～）

発作時脳波検討：毎週木曜日（午後2時30分～）

てんかんセンターカンファレンス：毎月第2木曜日（17：00～）

関連病院合同症例検討会：2ヵ月に1回（午後7時00分～）

<新生児研究室>

症例検討会：毎週月曜日（午後4時00分～）

周産期カンファレンス：毎週水曜日（午後3時00分～）産科、小児外科と合同

新生児画像判読：毎月1回木曜日（午後4時00分～）

抄読会：毎週月曜日（カンファレンス終了後）毎週水曜日（朝8時00分～）

死亡症例カンファレンス 適宜

<循環器研究室>

抄読会・研究カンファレンス：木曜日（午後4時頃～・月1回）

小児循環器・心臓血管外科合同カンファレンス：毎週水曜日（午後4時頃～）

V. 経験するべき症候・疾患

研修中は、様々な疾病を偏りなく経験することが重要である。研修中に経験するべき症候・疾患については、日本小児科学会が発行している「小児科専門医 臨床研修手帳」の19～37頁に記載がある。小児科専門医試験に際して、「小児科専門医 臨床研修手帳」の提出が義務づけられるため、「小児科専門医 臨床研修手帳」を利用して、経験した症候・疾患を記録しておくことが必要である。

VI. 研修の自己評価、指導医評価

臨床研修では、自己評価を行うことが必要である。同時に指導医評価を行うことで、研修内容の見直しが行われる。研修の自己評価、指導医評価についても日本小児科学会が発行している「小児科専門医 臨床研修手帳」の8～9頁、12～17頁に記載があるため、それを利用することとする。

新しい専門医制度における、名大病院小児科研修医（専攻医）プログラムにおける研修の評価については第二部に記載されている。「小児科専門医 臨床研修手帳」は、小児科研修を開始する際に、各施設の責任者から配布してもらうこと。

VII. 専門医取得プログラム

小児科の専門医制度には、小児科専門医のほかに小児科各分野に専門医制度が存在する。小児科初期研修の目的のひとつに、小児科専門医を取得後にサブスペシャリティーを育成することがあげられる。本学小児科での研修プログラムに、各専門分野における専門医制度に関する情報を提供するので、各分野の専門医取得に利用していただきたい。

① 小児科専門医制度

名 称：小児科専門医

専門医認定学会：日本小児科学会 (<http://www.jpeds.or.jp/>)

概 要：日本小児科学会が認定する。従来の認定制度より、2002年に小児科専門医制度を新たに施行した。小児科専門医は小児保健を包括する小児医療に関してすぐれた医師

を育成することにより、小児医療の水準向上進歩発展を図り、小児の健康の増進および福祉の充実に寄与することを目的とし、所定の卒後研修を終了した会員に対し、試験を実施し、資格を認めている。資格は5年ごとに審査のうえ更新される。

なお、2017年度より、研修プログラムの評価・認定、研修施設の評価・認定、小児科専門医の認定については、学会ではなく中立的第三者機関である日本専門医機構が行うことになった（新制度）。そのため、2015年以降に初期研修を開始した医師が小児科専門医を取得するためには、基幹施設が提供するプログラム制による小児科の後期研修を原則3年間行う必要がある。名大病院小児科研修医（専攻医）プログラムについては第二部を参照頂きたい。以下に記載されている専門医の受験要件は旧制度対象者（2014年以前に初期研修を開始した医師）であり、新制度での受験要件とは異なる可能性がある。

必要条件：

- A) 試験当日に学会会員であり、学会会員歴が引き続き3年以上、もしくは通算して5年以上であるもの。
- B) 2年間の卒後臨床研修を受け、その後さらに小児科専門医制度規則第15条に規定する小児科臨床研修を3年以上受けたもの。もしくは小児科臨床研修を5年以上受けたもの。

2009年以降の医師国家試験合格者の受験資格には、下記も必要である。

(https://www.jpeds.or.jp/modules/specialist/index.php?content_id=42)

- 1) 学会会員歴が引き続き3年以上、もしくは通算して5年以上であるもの。
- 2) 2年間の卒後初期臨床研修を修了後、学会の指定した専門医研修施設（専門医研修関連施設を含む）において3年以上の研修を修了、または研修修了見込みであるもの。ただし、専門医研修期間のうち延べ6か月以上を研修支援施設で研修すること。

また、2017年以降の専門医試験においては下記も必要となる。

(https://www.jpeds.or.jp/modules/specialist/index.php?content_id=78)

- (1) 論文執筆経験を受験の必須項目として義務化する。なお、指定の雑誌に掲載されたもので受験者が筆頭著者となっている論文のみとする。
- (2) 症例要約に指定疾患を含むことを義務化する。なお、各疾病分野に指定疾患を最低1例含む必要がある。

新制度の概要を以下に示す。基幹施設ごとに研修プログラムが提供されており、詳細については各研修プログラムを参照していただきたい。

a) 名大関連での小児科専門医研修施設

- ・ 基幹施設

名古屋大学医学部附属病院、岡崎市民病院、公立陶生病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院、あいち小児保健医療総合センター、名古屋記念病院

- ・ 名古屋大学連携施設

愛知医科大学病院、愛知県厚生農業協同組合連合会豊田厚生病院、愛知県厚生農業協同組合連合会江南厚生病院、愛知県医療療育総合センター中央病院、あま市民病院、稲沢市民病院、大垣市民病院、春日井市民病院、公立西知多総合病院、国立病院機構名古屋医療センター、国家公務員共済組合連合会名城病院、総合上飯田第一病院、大同病院、地域医療機能推進機構中京病院、中津川市民病院、中東遠総合医療センター、西知多総合病院、常滑市民病院、トヨタ記念病院、中津川市民病院、名古屋掖済会病院、半田市立半田病院、碧南市民病院、名鉄病院、

b) 小児科専門医を取得するための過程や取得時期：

小児科研修プログラムは3年間であり、基幹施設での研修を6ヶ月以上含む必要がある。

c) 小児科専門医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

「小児科専門研修開始の決定後は」あるいは「各専門研修プログラム採用決定後は」、早期に日本小児科学会に所属し研修を開始する。詳細は小児科学会のホームページ(<https://www.jpeds.or.jp/>)を参照のこと。

② 小児科各分野関連の専門医（認定医）制度について

以下の各項目を各分野の専門医制度につき詳述する。最新の情報については記載してある学会ホームページを参照されたい。

専門医（認定医）の名称、認定学会、取得必要条件

- a) 専門研修認定施設に必要な専門医（認定医）
- b) 名大関連での専門医（認定医）認定施設と専門医（認定医）・指導医の人数
- c) 名大関連病院ごとの特徴（＊この際の名大関連とは、関係する研修可能な施設を含む）
- d) 各分野専門医（認定医）を取得するための過程や取得時期
- e) 各分野専門医（認定医）を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

< 日本血液学会 >

名称：血液専門医

専門医認定学会：日本血液学会 (<http://www.jshem.or.jp/index.html>)

必要条件：

- ・小児科専門医を有していること
- ・卒後 6 年以上の臨床研修を必要とし、このうち 3 年以上要件を満たした研修施設において臨床血液学の研修を行った者(研修教育施設での研修は原則 1 年以内とする)
- ・申請時に継続して 3 年以上の会員歴を有していること
- ・筆頭演者または筆頭著者として学会または論文発表の実績を 2 つ以上有すること
- ・主担当医としてカリキュラムで求める 55 症例の症例を経験し登録していること
- ・15 症例の症例要約が受理されていること。
- ・血液関連の学術集会や規格に研修終了までに計 5 回以上参加していること

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：

- ・指導医 1 名以上が常勤していること
- ・専攻医受け入れ数は、原則として指導医数を上限とする。なお、指導医は原則として同時に 3 名までを指導することができる。

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

・研修認定施設：

名古屋大学医学部附属病院

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

国立病院機構名古屋医療センター

・研修教育施設：

愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院

・血液専門医：

名古屋大学医学部附属病院 小児科

高橋義行 村松秀城

片岡伸介 成田幸太郎

佐治木大知

国立病院機構名古屋医療センター 小児科

前田尚子 関水匡大

市川大輔

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児科

濱 麻人 吉田奈央

土居崎小夜子

愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院 小児科

宮島雄二

名鉄病院 小児科

渡邊修大

岡崎市民病院 小児科

近藤 勝

愛知医科大学 小児科

堀 壽成

・血液指導医：

名古屋大学医学部附属病院 小児科	高橋義行 村松秀城
国立病院機構名古屋医療センター 小児科	前田尚子 関水匡大
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児科	
	濱 麻人 吉田奈央
	土居崎小夜子
岡崎市民病院 小児科	近藤 勝
愛知県厚生農業協同組合連合会安城更生病院	宮島雄二
愛知医科大学 小児科	堀 壽成

<日本造血・免疫細胞療法学会>

名称：造血細胞移植認定医

専門医認定学会：日本造血・免疫細胞療法学会 (<http://www.jshct.com/index.shtml>)

必要条件：

- ・日本血液学会血液専門医、または日本小児血液・がん専門医取得
- ・日本造血・免疫細胞療法学会の会員歴3年
- ・日本造血・免疫細胞療法学会学術総会参加3回以上
- ・教育セミナー10単位以上
- ・非血縁者間造血細胞移植認定施設において、造血細胞移植に関する内科または小児科研修による通算1年以上の診療実績
- ・骨髓採取実績3例以上
- ・同種造血細胞移植の診療実績記録5例以上を提出
- ・造血細胞移植臨床に関する学術業績として、①造血細胞移植の臨床に関する筆頭著者論文（和文・英文は問わない）1つ以上、②造血細胞移植に関する学会発表3回以上（筆頭演者1回以上を含む）を有する

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

・造血・免疫細胞療法認定医：

名古屋大学医学部附属病院 小児科	高橋義行 村松秀城
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児科	
	濱 麻人 吉田奈央
	土居崎小夜子
国立病院機構名古屋医療センター 小児科	前田尚子 関水匡大

<日本小児血液・がん学会>

名称：小児血液・がん専門医

専門医認定学会：日本小児血液・がん学会 (<http://www.jspho.jp/>)

必要条件：

<http://www.jspho.jp/specialist/>

- ・小児科専門医取得
- ・日本がん治療認定医機構がん治療認定医、または日本血液学会血液専門医取得
- ・日本小児血液・がん学会の会員歴3年
- ・卒後初期研修終了後5年以上小児血液および小児がんを含む小児科臨床に携わっていること。
- ・24か月以上日本小児血液・がん学会の専門医研修施設に所属し、定められた研修カリキュラムを終了していること。

a) 専門医研修施設認定に必要な専門医：

小児血液・がん指導医（暫定指導医を含む）1名以上が常勤で勤務していること。

b) 名大関連での専門医研修施設と専門医・指導医の人数

- ・小児血液・がん専門医研修施設：（日本小児血液・がん学会認定の名大小児科関連病院）
名古屋大学医学部附属病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、国立病院機構名古屋医療センター、愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院

・小児血液・がん専門医：

名古屋大学医学部附属病院 小児科	村松秀城 片岡伸介
愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院 小児科	宮島雄二
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児科	濱 麻人 吉田奈央
	土居崎小夜子
国立病院機構名古屋医療センター 小児科	前田尚子 関水匡大
	服部浩佳 市川大輔

・小児血液・がん指導医：

名古屋大学医学部附属病院 小児科	村松秀城
国立病院機構名古屋医療センター 小児科	前田尚子 関水匡大
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児科	濱 麻人 吉田奈央
愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院 小児科	宮島雄二

c) 名大関連病院ごとの特徴

- ・名古屋大学医学部附属病院：再生不良性貧血・神経芽腫を中心として、広範な難治性

の血液・腫瘍疾患をカバーする。症例も多数。幹細胞移植症例数：25 例（2023 年）。再生不良性貧血治療研究会の全国事務局。単一施設での小児再生不良性貧血の治療症例数は世界有数。血液・腫瘍に関する臨床から基礎的研究まで施行。ヒトへの細胞治療を可能にする GMP 基準に合致したセルプロセッシングセンターを併設。

- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院：各種白血病、造血不全症等の症例が非常に豊富。広範な血液・腫瘍疾患に対応。造血細胞移植の累積症例数は 700 例を超え、小児科では全国 2 番目に多い。施設独自の方針を基に低リスク群では晩期障害の予防、高リスク群では非再発死亡の低減に取り組んでいる。先天性代謝異常症等の非腫瘍性疾患の造血細胞移植症例数も国内有数。平成 25 年度には厚生労働省から造血幹細胞移植拠点病院の 1 つに認定され、小児造血細胞移植領域の教育研修に努めている。
- ・国立病院機構名古屋医療センター：厚生労働省が指定する血液・造血器疾患分野の高度専門医療施設であり、小児科においても白血病・リンパ腫など造血器腫瘍、骨軟部腫瘍・網膜芽細胞腫など固形腫瘍を中心に、広範な血液・腫瘍疾患の症例が多数あり。附属の臨床研究センターには、日本小児がん研究グループ(JCCG)血液腫瘍分科会(JPLSG)のデータセンターと遺伝子解析センターがあり、全国から小児造血器腫瘍のデータが登録集計されるとともに白血病リンパ腫の中央検査が行われている。
- ・愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院、岡崎市民病院、名鉄病院：症例数は上記 3 病院と比較して少ない。

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

- ・小児科専門医取得および 3 年以上の日本血液学会認定施設での研修が必要。臨床では研究的な考え方も必要であるため、大学院入学を勧めている。大学院在学中に小児科専門医の資格を取得していれば、最短で大学院修了時に血液専門医の受験資格を得ることも可能である。
 - ・大学院コース：最初の半年～2 年間は大学で臨床研修を行い、残りの期間は診療フリーで研究に専念する。従来型のコース。
 - ・社会人大学院コース：大学（身分は医員に準ずる）あるいは関連施設（日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、国立病院機構名古屋医療センターなど）で、血液学の分野で 3 年以上の臨床経験を積み、さらに 6 ヶ月から 1 年の研究期間で業績をまとめ、学位を取得して専門医試験を受験するコース。
- なお、大学院終了後、専門医を取得した後は海外留学、血液専門施設への就職、教員への任用等の道が開かれている。

<日本アレルギー学会> (<http://www.jsaweb.jp>)

名称：一般社団法人日本アレルギー学会認定「アレルギー専門医」

専門医認定学会：一般社団法人日本アレルギー学会 (<http://www.jsaweb.jp/>)

＊2024 年度も、専門医機構による新制度開始が保留となっているため、従来の学会認定制度が継続されている。学会認定制度で研修を開始した者は、この制度の規定に従って専門医資格を取得することとなる。

必要条件：

- ・ 認定時に引き続き 5 年以上この法人の会員であること
- ・ 小児科学会の専門医資格の認定を受けていること
- ・ 通算 6 年以上の臨床研修歴を要する。その内通算 3 年以上は本学会入会后とし、日本アレルギー学会認定教育施設等における臨床研修を要する。ただし、教育施設での研修が困難な場合は、別途規定の研修方法により所定の臨床研修を受ける
- ・ 最近の 5 年間に自ら診療しているアレルギー疾患患者 40 名分の診療実績書と内 2 例の症例報告書の提出
- ・ 最近の 5 年間にアレルギー学の業績が 50 単位以上あること。ただし、日本アレルギー学会学術大会 2 回以上および総合アレルギー講習会 1 回以上の出席を必須とする。
- ・ 「専門医」資格認定試験に合格していること。

(教育施設以外での研修計画)

- (1)集中研修を 1 回受講する。
- (2)教育セミナーを 3 回受講する(半日コース・全日コースそれぞれ 1 回以上受講)。
- (3)「指導医」または「専門医」の外来見学実習(診療所も可)を 10 時間以上受講する。

(教育施設と教育施設以外での研修の組合せ)

- (1)「教育施設」での研修歴が 2 年以上 3 年未満の場合は前条の(1)又は(2)を受講する。
- (2)「教育施設」での研修歴が 1 年以上 2 年未満の場合は前条の(1)～(3)のうち 2 つを受講する。
- (3)「教育施設」での研修歴が 1 年未満の場合は前条の(1)～(3)を受講する。

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：

指導医 1 名以上または専門医 2 名以上（非常勤 1 名を含む）が勤務していること

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・ 関連病院における専門医教育研修施設：

あいち小児保健医療総合センター、国立病院機構名古屋医療センター、
名古屋掖済会病院、公立陶生病院、春日井市民病院
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

碧南市民病院（準教育研修施設）

・指導医：

あいち小児保健医療総合センター	伊藤浩明、松井照明、他
国立病院機構名古屋医療センター 小児科	二村昌樹
春日井市民病院 小児アレルギーセンター	小林貴江
日赤愛知医療センター名古屋第一病院 小児科	牧野篤司
中京病院 小児科	古田朋子（非入局）*

・専門医：

碧南市民病院 小児科	土井 悟
公立陶生病院 小児科	森下雅史、田中賀治代*
豊田厚生病院 小児科	武田将典、中西久美子*
トヨタ記念病院 小児科	大島美穂子*、後藤志歩*
名古屋掖済会病院 小児科	伊藤祥絵
春日井市民病院 小児科	田上和憲
春日井市民病院 小児アレルギーセンター	中田如音*
岡崎市民病院 小児科	渡邊由香利*、真田優*
名古屋記念病院 小児科	武藤太一郎、佐藤有沙*
愛知医科大学病院 小児科	武藤太一郎*
安城更生病院 小児科	辻 元基*
名鉄病院 小児科	鈴木水鳥*
名城病院 小児科	木村量子* *非常勤医師

c) 名大関連病院ごとの特徴

・あいち小児保健医療総合センター アレルギー科

アレルギーに専門特化した診療と臨床研究を行っており、全国から多数のフェローが研修に集まっている。食物アレルギーの経口負荷試験（1200 件/年）や経口免疫療法など、全国有数の症例数をもつ。藤田医科大学、名古屋学芸大学管理栄養学部などと連携し、基礎的な研究も経験可能。学会発表（国際学会含む）年間 20 件以上，論文（英文含む）作成も指導する。名古屋大学の連携大学院（総合小児医療学講座）になっているため、大学院生として在籍することも可能。

・国立病院機構名古屋医療センター 小児科

国立病院機構のネットワークを活かした全国規模の臨床研究が可能である。附属の臨床研究センターには生物統計をはじめ臨床研究のプロが複数所属しており、立案・実施・解析まできめ細かく指導する。また科研費の獲得に関しても指導を行う。

- ・春日井市民病院 小児科 小児アレルギーセンター

指導医 1 名、専門医 2 名が在籍し、教育施設に認定されている。日帰り入院食物経口負荷試験（約 650 件/年）、運動負荷試験及び外来食物経口負荷試験を行っている。2022 年 6 月新病棟に開設した小児アレルギーセンターでアレルギーに特化した診療を担当し、ほぼ毎日 2 診体制でアレルギー外来を行なっている。小児期の軽症から重症まで幅広い症例を経験できる。多職種で診療し、合同カンファレンスも行っている。学会発表、論文作成も指導する。

- ・公立陶生病院 小児科

専門医 2 名が在籍し、教育施設として認定されている。食物アレルギーの診療だけでなく、生理機能検査・吸入指導など気管支喘息の診療にも力を入れている。

- ・愛知医科大学病院 小児科

指導医 1 名と専門医 2 名の非常勤が在籍している。入院・外来での食物アレルギー経口負荷試験を実施している。

- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児科

指導医 1 名が在籍し、教育施設認定を取得している。非常勤の専門医 1 名も外来診療にあたっている。3 次救急を備えた基幹病院の特性を活かして、名古屋西部および西尾張地方のアレルギー診療に貢献している。食物負荷試験は栄養士と連携して行い、コメディカルの資格（小児アレルギーエデュケーター、アレルギー疾患療養指導士）取得の指導も行なっている。専門医取得のための指導を密に行うことができる。

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

小児科後期研修を修了した後、アレルギー教育施設で 3 年間（3 年未満の場合はその他の研修で補完）の臨床研修を行う。

e) 各分野専門医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

名古屋大学の後期研修制度を修了した後、あいち小児保健医療総合センター、又は名古屋医療センターでフェローとして約 2 年間の専門研修を行う。それと前後して、関連病院でアレルギー外来などの臨床経験を積む経験も重要である。

<日本感染症学会>

名称：日本感染症学会専門医

専門医認定学会：日本感染症学会 (<http://www.kansensho.or.jp>)

必要条件：

- ・小児科専門医、日本感染症学会の会員歴 5 年
- ・感染症学の研修歴が 6 年以上であり、その内、3 年間は学会が指定した研修施設で研修を行っていること。

- ・感染症の臨床に関して筆頭者としての論文発表 1 篇、学会発表 2 篇、計 3 篇
- ・認定試験あり

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：日本感染症学会指導医が 1 名以上

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・専門医認定研修施設：

名古屋大学附属病院
 あいち小児医療保健総合センター
 江南厚生病院
 安城更生病院
 地域医療機能推進機構中京病院

- ・専門医：

一宮市立市民病院 小児科	成瀬 宏
名古屋大学大学院 ウイルス学	木村 宏
あいち小児医療保健総合センター 感染免疫科	河邊慎司
江南厚生病院 こども医療センター	尾崎隆男、西村直子、 後藤研誠
名古屋大学大学院小児科学 小児科	鳥居ゆか 鈴木高子 奥村俊彦

- ・指導医：

江南厚生病院 こども医療センター	尾崎隆男 西村直子 後藤研誠
地域医療機能推進機構中京病院 小児科	柴田元博
安城更生病院 小児科	鈴木道雄
あいち小児医療保健総合センター 感染免疫科	河邊慎司

＜日本小児感染症学会＞

名称：日本小児感染症学会認定指導医（専門医）

専門医認定学会：日本小児感染症学会 (<https://www.jspid.jp/certifying-physician/>)

必要条件：

- ・日本小児科学会専門医
- ・日本小児感染症学会会員歴 3 年
- ・研修施設（群）で 3 年以上の研修
- ・専門医試験あり

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：指導医が1名以上在籍

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

・専門医認定研修施設：

名古屋大学医学部附属病院

江南厚生病院 こども医療センター

あいち小児医療保健総合センター

・専門医（指導医）：

名古屋大学医学部附属病院

奥村俊彦

江南厚生病院 こども医療センター

西村直子、後藤研誠

あいち小児医療保健総合センター 感染免疫科

河邊慎司

<日本小児神経学会>

名称：小児神経専門医

専門医認定学会：日本小児神経学会 (<https://www.childneuro.jp>)

専門医試験の受験資格（抜粋）：

- ・日本小児科学会が認定する小児科専門医または日本リハビリテーション医学会が認定するリハビリテーション科専門医の資格を有する。
- ・小児神経専門医研修施設あるいは研修関連施設において5年間の所定の研修を修了している。
- ・現在小児神経疾患の診療に従事し、5年以上学会の会員歴を有する。
- ・小児神経疾患患者30例の症例要約と、その症例詳細報告5例を提出する。
- ・研修施設指導責任医、または小児神経専門医資格を有する本学会評議員の推薦状
- ・日本専門医認定制機構に加盟している基本領域の学会の専門医（認定医）資格
- ・最近5年間に研修単位が50単位以上。さらに本学会総会、小児神経学セミナーまたは学会が認めた地方会に出席した合計が20単位以上（但し、本学会総会出席が1回以上）。総会および地方会、関連学会に演者として2回以上発表し、小児神経学に関する論文（筆頭）を執筆。

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：

小児神経臨床研修の指導責任者が定められ、指導責任医は常勤ないしそれに準ずる勤務実態を有する。

b) 名大関連病院での専門医認定施設と専門医の人数

・小児神経専門医研修認定施設

名古屋大学医学部附属病院、あいち小児保健医療総合センター、

愛知県医療療育総合センター中央病院、		
安城更生病院、岡崎市民病院、愛知医科大学		
・研修認定施設の関連施設		
愛知県青い鳥医療療育センター、愛知県三河青い鳥医療療育センター、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、豊田市こども発達センター		
・名古屋大学関連病院における専門医		
名古屋大学医学部附属病院	夏目 淳	城所博之
	中田智彦	伊藤祐史
愛知県医療療育総合センター中央病院	丸山幸一	山田桂太郎
	倉橋直子	
愛知医科大学病院	奥村彰久	倉橋宏和
あいち小児保健医療総合センター	糸見和也	鈴木基正
	青木雄介	牧 祐輝
青い鳥医療療育センター	菱川容子	安井 泉
	平岩文子	横井摂理
三河青い鳥医療療育センター	檜原 翔	
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	山本啓之	田中雅大
安城更生病院	久保田哲夫	深沢達也
岡崎市民病院	加藤 徹	鈴木健史
豊田厚生病院	梶田光春	
公立陶生病院	坂口陽子	
岡崎市こども発達センター	辻 健史	

c) 名大関連病院ごとの特徴

- ・岡崎市民病院：急性脳症やけいれん重積などの急性期疾患も、脳性麻痺・てんかんなどの慢性疾患も多い。新生児脳波を始めとする新生児神経学に力を入れて臨床・研究を行っているほか、サイトカインと中枢神経疾患との関連や、神経画像についても臨床・研究で実績がある。岡崎市こども発達センターと連携し発達障害について学ぶこともできる。
- ・安城更生病院：新生児神経学の研究がさかんである。急性脳症やけいれん重積などの急性期疾患も、脳性麻痺・てんかんなどの慢性疾患も多い。てんかんや神経画像の分野でも実績が多い。
- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院：急性脳症やけいれん重積などの急性期疾患も、脳性麻痺・てんかんなどの慢性疾患も多い。NICU を持つため新生児脳波の記録も多い
- ・愛知県医療療育総合センター中央病院：重度の障害児が多く、障害児の包括的ケアを

研修するのに向く。また、先天異常児も多く、遺伝性疾患についての研修も可能である。研究面では愛知県医療療育総合センター発達障害研究所との共同研究ができる可能性がある。

- ・あいち小児保健医療総合センター：急性から慢性まで幅広い領域の症例が集まっている。とくに重症の急性神経疾患が集約される方向にあり、神経集中治療管理を研修するのに適している。また、筋疾患も先天性・代謝性・炎症性筋疾患の診断・治療を幅広く行っており、最新の診断・治療の研修も行える。痙縮治療等の慢性期神経障害の治療症例も豊富である。
- ・青い鳥医療療育センター：療育施設として障害児医療を経験、理解する機会になる。障害児の嚥下機能評価などに力を入れている。
- ・三河青い鳥医療療育センター：療育施設として障害児医療を経験、理解する機会になる。障害児の三次元歩行解析などに力を入れている。
- ・豊田市こども発達センター：2012 年から名古屋大学小児科の関連施設になった。児童精神科が充実しており、障害児医療と併せて発達障害の診療について研修できる。
- ・愛知医科大学病院：てんかんセンターを立ち上げ、てんかんの包括的診療を行っている。また、救急医療に力を入れており、けいれん重積や急性脳症の実績もある。それ以外にも多様な小児神経疾患の研修が可能である。
- ・公立陶生病院：急性脳症やけいれん重積などの急性期疾患も、脳性麻痺・てんかんなどの慢性疾患も経験できる。また、名古屋大学精神科・親と子どもの心療科と連携して子どものこころ専門医研修の連携施設 A となっており、神経発達症、心身症、不登校、摂食障害などの子どものこころ診療にも力を入れている。

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

初期研修病院での研修内容にもよるが、小児科専門医を取得後 2～3 年程度は名古屋大学医学部附属病院か、上記の研修施設でのトレーニングが必要と思われる。

専門医としての知識、技能を身につけるには、急性疾患、慢性疾患、新生児神経学、障害児医療などを偏りなく診療できることが望まれるため、2～3 カ所の研修施設で診療に従事するのが理想であろう。

e) 各分野専門医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

- ・大学院に進学する場合：最低 1 年は名古屋大学医学部附属病院での臨床業務に従事する。代務で神経外来を継続的に担当する。小児神経疾患の遺伝学的または画像・神経生理学的研究を行い、在学中に小児神経に関する臨床研究論文も執筆する。
- ・大学院に進学しない場合：上記の研修施設で 2～3 年研修するか、名古屋大学医学部附属病院で医員として臨床業務を行う

<日本周産期・新生児医学会>

名称：周産期専門医(新生児)

専門医認定学会：日本周産期・新生児医学会

(<https://www.jsnpm.com/Senmoni/seido.aspx>)

必要条件：

- ・日本小児科学会専門医
- ・日本周産期・新生児医学会会員歴が3年以上
- ・認定研修施設における3年間の研修(6カ月は指定された基幹病院での研修が必須)。
- ・学会が認める周産期医学関連学会に所定の回数，参加し，かつ筆頭演者として発表を行っていること。
- ・筆記試験、面接試験あり

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：

- ・1名以上の指導医が必要

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・指導医は日本周産期・新生児医学会の専門医委員会が選考した暫定指導医である。
- ・研修認定施設：

基幹施設：名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター、
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院総合周産期母子医療センター

愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院総合周産期母子医療センター
大垣市民病院第二小児科（小児循環器・新生児科）

指定施設：公立陶生病院小児科、トヨタ記念病院周産期母子医療センター、
岡崎市民病院小児科、江南厚生病院こども医療センター

補完施設：半田市立半田病院小児科

・専門医

名古屋大学医学部附属病院

佐藤義朗 三浦良介 田中龍一
鈴木俊彦 鈴木紗記子 前田剛志
間宮野里花 濱崎咲也子 谷口顕信
五十里東

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

大城 誠 中山 淳 齊藤明子
杉山裕一郎

愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院

加藤有一 久保田哲夫 服部哲夫
野田晴香

大垣市民病院 第二小児科（小児循環器・新生児科）	伊藤美春	橋本佑樹
	落合加奈代	
江南厚生病院 こども医療センター	竹本康二	
公立陶生病院	加藤英子	片岡英里奈
トヨタ記念病院	山本ひかる	棚橋義浩
岡崎市民病院	松沢 要	

・代表指導医および暫定指導医：

名古屋大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター	佐藤義朗
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 総合周産期母子医療センター	大城 誠
愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院 新生児科	加藤有一
大垣市民病院 第二小児科（小児循環器・新生児科）	伊藤美春
公立陶生病院 小児科	加藤英子
トヨタ記念病院 新生児科	山本ひかる
岡崎市民病院 新生児小児科	林 誠司
江南厚生病院 こども医療センター	竹本康二

c) 名大関連病院ごとの特徴

- ・**名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター**：総合周産期母子医療センターとして、集学的周産期医療を行っている。胎児診断された新生児外科疾患症例が豊富であり、特に先天性横隔膜ヘルニア症例は国内でトップレベルの症例数と成績である。一酸化窒素吸入療法、体外式膜型人工肺、低体温療法、血液透析等の高度医療に対応しており、三次救命の研修が可能である。また、関連施設のまとめ役的存在であり、関連施設からのデータ管理、分析なども行っている。さらに新生児仮死による低酸素性虚血性脳症患者を対象とした幹細胞療法の基礎研究、トランスレーショナル研究、臨床試験（医師主導治験など）を行っている。
- ・**日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院総合周産期母子医療センター**：年間の入院数は約 600 名で、極低出生体重児の入院数は約 100 名に及ぶ。NO 吸入・低体温療法や新生児外科・脳神経外科手術に対応可能である。小児科専門研修医は新生児専任医師と共に当直を行い、昼夜を問わずに指導を受けることができる。
- ・**愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院総合周産期母子医療センター**：年間 700 例の入院、200 例以上の新生児搬送を行うなど、西三河周産期医療の中心的役割を果たしている。特に神経領域や超早産症例が豊富であることから、充実した新生児医療研修が可能である。
- ・**大垣市民病院**：岐阜県西濃地域唯一の NICU であり、新生児搬送も広域をカバーし、

積極的に行っている。早産児は在胎 22 週から対応し、NO 吸入療法や脳低温療法など重症成熟児にも対応できる。小児循環器科の管理で先天性心疾患の管理も行っている。専門医や上級医の指導の下、充実した新生児研修を目指している。

- ・ **トヨタ記念病院**：西三河北部医療圏の地域周産期母子医療センターとして認定され、NICU6 床、GCU12 床を有している。超低出生体重児を含むハイリスク新生児に対応し、院外出生児の迎え搬送にも対応している。将来、若手医師が苦手意識を持つことなく新生児診療を行えるよう、重症例の診療にも上級医の指導の下で積極的に関わることが可能である。
- ・ **公立陶生病院**：愛知県地域周産期母子医療センターに指定されており、NICU6 床、GCU9 床を有している。超低出生体重児を含む低出生体重児や人工呼吸管理等を必要とするハイリスク新生児の診療を行っている。尾張東部医療圏のみならず、岐阜県東濃地区からの新生児搬送や母体搬送にも対応している。
- ・ **江南厚生病院**：江南厚生病院こども医療センターは、こども病棟 51 床、NICU6 床、GCU12 床からなる。若手医師に充実した新生児分野の研修の場を提供するとともに、地域周産期母子医療センターとしての機能向上を目指している。
- ・ **岡崎市民病院**：当病院の NICU は地域周産期センターで、NICU 加算 6 床、GCU17 床の 23 床からなる。早産児は 22 週から対応しており、低体温療法、NO 吸入療法も可能である。各施設からの医師のサポートもあり、腸管穿孔に対する手術、動脈管結紮術も NICU 内で行っている。

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

- ・ 研修期間は 3 年間
- ・ 基幹研修施設または指定研修施設・補完研修施設で研修となる。
- ・ 3 年間の研修期間のうち、6 ヶ月は基幹病院（名古屋大学医学部附属病院・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院・愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院・大垣市民病院）での研修が義務付けられている。

e) 各分野専門医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

- ・ 小児科初期研修終了後（小児科専門医取得後）に、研修可能な施設に勤務をして、専門医研修を開始する。研修中、最低 6 カ月は基幹病院へ赴任することとする。
- ・ 効率的な研修ができるように、施設間における研修内容の違いを極力少なくする努力を行っている。

<日本小児循環器学会>

名称：日本小児循環器専門医

専門医認定学会：日本小児循環器学会 (<http://jspccs.umin.ac.jp/>)

必要条件：

- ・ 日本国医師免許を有すること。
- ・ 小児循環器専門医は小児科専門医であること。他の基本領域の専門医については、専門医・修練施設等認定委員会で審査する。
- ・ 受験申込時小児循環器学会会員であり、会費を完納していること。
- ・ 卒後 8 年以上の研修および修練期間を有し、本学会が認定する研修施設または研修施設群で 2 年間以上（6 年未満）の小児循環器研修を修了していること。ただし、小児科専攻医期間との重複は認めない。
- ・ 付則に定める臨床経験を持っていること。
- ・ 所定の学術研究業績を有すること。
- ・ 本学会が認める小児循環器関連学会に所定の回数参加し、かつ筆頭演者として発表を行っていること。
- ・ 本学会の行う資格認定試験に合格していること。

*小児循環器専門医の申請に必要な修練内容は以下の通り。

1. 小児循環器専門医の申請に必要な修練内容は以下の通りとし、修練内容実績表を提出すること。
 - (1) 研修カリキュラムにある A,B 項目の 80%以上を達成すること。
 - (2) 下記の 6 疾患群からそれぞれ最低 2 症例を含む計 60 症例以上を小児循環器担当医として経験していること。但し、経験症例は 1 年間で 40 例の申請を上限とする。
 - ① 遺伝性および後天性心疾患
 - ② 不整脈
 - ③ 新生児
 - ④ 成人先天性心疾患
 - ⑤ 周術期管理
 - ⑥ その他の疾患群
 - (3) 心臓カテーテル検査を 30 例以上、運動負荷検査を 5 例以上、ホルター心電図読影を 5 例以上、心エコー検査を 100 例以上経験していること。
 - (4) 心臓検診への参加や、要精検者への対応などの実績があること。
 - (5) 小児循環器に関係する原著論文を 1 編以上、筆頭著者として刊行していること。
 - (6) 日本小児循環器学会認定の、学会、研究会、分科会、地方会に、小児循環器に関係する発表を、筆頭演者として 3 回以上（うち 1 回は日本小児循環器学会学術集会とする）行っていること。
 - (7) 日本小児循環器学会学術集会へ出席していること。
 - (8) 研修施設内外を問わないが、安全管理に関する会議、講習会出席していること。
2. 所定の経験症例要約（30 症例、1 年間の経験で 20 症例が上限）を提出すること。

※今後の日本専門医機構の審査によって改訂される可能性があるため、最新情報は小児循環器学会ホームページを確認すること。

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：

1名以上の小児循環器専門医が必要。その他施設基準あり。

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

研修施設群

地域医療機能推進機構中京病院（中京こどもハートセンター）	小児循環器科（基幹施設）
あいち小児保健医療総合センター	循環器科（基幹施設）
大垣市民病院	小児循環器・新生児科
名古屋大学医学部附属病院	小児循環器センター・小児科
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	小児科
岡崎市民病院	小児科
国家国務院共済組合連合会名城病院	小児科・小児循環器科

小児循環器専門医

地域医療機能推進機構中京病院（中京こどもハートセンター）	小児循環器科	西川 浩、吉田修一朗 吉井公浩、今井祐喜、佐藤純 武田 紹*
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	小児科	福見大地、三井さやか 後藤雅彦
国立病院機構名古屋医療センター小児科		倉石建治 西原栄起 太田宇哉
大垣市民病院 小児循環器・新生児科		
名古屋大学医学部附属病院 小児循環器センター・小児科		大橋直樹、加藤太一 山本英範
岡崎市民病院 小児科		長井典子、永田佳敬 瀧本洋一*
名城病院 小児科・小児循環器科		小島奈美子 小川貴久*
あいち小児保健医療総合センター	循環器科・新生児科	鬼頭真知子 野村羊示

豊田厚生病院 小児科	山田祐也
半田市立半田病院小児科	生駒雅信
中東遠総合医療センター 小児科	篠原 修*
安城更生病院	早野 聡
	大森大輔

*非常勤医師

c) 名大関連病院ごとの特徴

名古屋大学医学部附属病院小児科

主として先天性心疾患の診断やフォロー、他科の手術における周術期管理、胎児心エコー、成人先天性心疾患の診療などを行っている。先天性心疾患児の中には心疾患以外の合併症をもつ場合もあるため、他科や他施設との共同で効果的な医療を行うように努めている。また、特発性や、肝疾患関連、新生児肺疾患関連を含めた肺高血圧症には力を入れている。近年増加傾向にある成人先天性心疾患については小児科のみまたは循環器内科のみの診療では不足する点もあり、循環器内科、胸部外科と合同カンファレンスを行い、心臓カテーテル検査も合同で行って方針を決定している。令和5年度から「小児循環器センター」が稼働し、心臓血管外科と連携して先天性心疾患の手術を段階的に開始した。令和5年度は、青年と学童後半を手術対象とし、令和6年度は学童前半→幼児→乳児へ手術対象を拡大して、さらに令和7年度からは新生児に手術対象を拡大する予定で、令和9年度に全ての年齢・疾患・手術を対象としたフル稼働を目指している。

地域医療機能推進機構中京病院小児循環器科：先天性心疾患の手術件数は 230 例前後で推移しています。また、カテーテル治療では、日本小児インターベンション学会(JPIC)の登録数が 195 例と全国トップ 3 に昨年同様入っています。この他、胎児心エコーは年間 114 例を数え、胎児期から先天性心疾患児を管理して迅速な治療介入を行い、その結果新生児重症例の手術例が多く、加えて低い新生児手術死亡率が当院の最大の特徴です。施設認定、術者認定を要する心臓カテーテル治療では ASD,PDA 閉鎖術に加え、新たに「経カテーテル肺動脈弁留置術；TPVI」が、ファロー四徴症修復術後など遠隔期の肺動脈弁逆流による右心不全に対する低侵襲治療として最近開始されました。先天性心疾患症例の生涯を胎児期から成人に至るまで、循環器内科や周辺施設とそれぞれの特徴を活かしつつ手を携え支えて行っています。

あいち小児保健医療総合センター循環器科：東海三県で唯一の小児医療専門施設で、小児専門 ICU、小児救命救急センター、周産期センター、そして小児心臓病センターを有する。心臓外科、新生児科、集中治療科、救急科、麻酔科、その他の内科系専門科および外科系専門科と協力しながら小児に特化した高度な診療を行うことが可能で

ある。2022 年の診療実績は、心臓カテーテル検査 308 件（うち治療 114 件＝37%）、心臓外科手術 202 件（mortality 1.5%）であった。近隣施設との合同カンファレンスも定期的に行い、綿密に連携した質の高い医療を展開している。従来、心臓移植適応のある重症心不全患者さんは愛知県外への転院、長期入院を余儀なくされたが、2020 年 1 月に「小児用補助人工心臓実施施設」の認定を受け、2022 年秋には補助人工心臓の増設により、同時に 2 人の重症心不全患者さんを当センターで管理、移植待機することが可能である。

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院小児科：専門医 2 名を中心に心臓超音波検査約 3000 例、心カテ 20 例 TDM20 例、川崎病診療 40 例など行っています。また産婦人科（胎児診断例）、循環器科（成人先天性心疾患外来例）心臓外科（ASD での MICS 手術（小さい傷口での開胸手術 特に心房中隔欠損症）例）とのカンファレンスを積極的に行っています。研修医に小児循環器に興味をもってもらえるような診療を心掛けています。

大垣市民病院第二小児科(小児循環器・新生児科)：総病床数 817 の岐阜県西濃地域の基幹病院で、地域周産期母子医療センターです。小児循環器専門医 3 名のほか、新生児専門医、成人循環器内科、心臓血管外科、産婦人科、脳神経外科、救命救急センター、整形外科、形成外科などおよそ全ての診療科が揃い、急性から慢性まで全ての心疾患の診療を行っています。名古屋大学関連の第二小児科は、小児循環器疾患と成人先天性心疾患、NICU や GCU を主とする新生児疾患のみを担当し、その他の小児疾患は、救急外来を含め岐阜大学関連である小児科が担当しています。地域密着型の施設のため症例に偏りがなく、心臓カテーテル検査/治療や胎児心エコー、心疾患患者の合併症や予定外入院の管理を通して様々な疾患を経験できます。また、成人先天性心疾患は成人循環器内科／心臓血管外科とも協力して診療にあたっています。成人循環器内科では、10 代後半から先天性心疾患合併を含むカテーテルアブレーションを積極的に行い、心房中隔欠損症などの先天性心疾患に対するカテーテル治療も行っています。

岡崎市民病院小児科：

2023 年春は若手が小児循環器専門医を取得したため、小児循環器専門医の常勤 2 人になりました。その他に非常勤 1 人（隔週）、専門医の非常勤 1 人（月 1）の勤務体制です。心エコー、ホルター心電図、トレッドミルなどの数は多く、心臓カテーテル検査も少数ですが行っています。学校検診で指摘された QT 延長症候群の遺伝子検査は累計 80 例を超えました。NICU では主治医が急性期は心エコーを毎日行い、川崎病のエコーも相談しながら主治医が行うため、正常構造心エコーは若手でもで

きるようになります。愛知県下ではトップクラスの川崎病の入院数で、年間 80-100 例の入院数があります。早期から個々の症例に応じて治療法を組み合わせ、後遺症を残さないように日々検討することで、2022 年も冠動脈後遺症例はありませんでした。また、あいち小児保健医療総合センター、中京病院等の後方病院として重症心疾患の患者さんの感染症の予防や治療、発達の問題などもフォローしています。あいち小児保健医療総合センターとは小児循環器専門医制度研修施設群を作っているため、月 1 回の合同カンファレンスがあります。小児科専門医プログラムでは、あいち小児での循環器・集中治療の専攻医プログラムもあるため、専攻医 3 年目であいち小児での 3 か月研修が可能です。

名城病院小児循環器科：古くから小児心臓病患者に対して取り組んできているため、経過の長く成人に達した患者が多いことが特徴です。現在、今後の課題となる成人先天性心疾患の患者さんに心臓外科、内科、脳外科、産婦人科、整形外科等様々な科と連携して治療、経過観察に当たっています。また、不整脈管理、カテーテル治療等もこなっています。

中東遠総合医療センター小児科：指導医 1 名（浜松医科大学）・専門医 1 名（名古屋大学）を含む 3 名で協力して診療・研究を行っています。小児循環器専門医を目指す医師のため、静岡県内の施設と診療協力を行い、静岡県立こども病院・浜松医科大学小児科と共に小児循環器専門修練施設群として認定を受けております。また静岡県立こども病院・浜松医科大学小児科とは、インターネット回線を用いたネットカンファレンスを毎月開催しております。先天性心疾患の診断（胎児期含む）・治療、小児に特有の不整脈の診断・治療、学校心臓病健診・学童生活習慣予防検診における精密検査、病棟では主に川崎病の治療や先天性心疾患のカテーテル検査（月 1～2 回）などを行っています。先天性心疾患の手術は主に静岡県立こども病院などへ紹介しますが、カテーテル・CMR 検査や心不全治療などの術前・後管理は当院で担っており、専攻医として赴任された場合には良い研修ができることと思います。

<日本小児腎臓学会> (<http://nephron.med.tohoku.ac.jp/jspn/>)

名称：日本腎臓学会認定医（小児科）

専門医認定学会：日本腎臓学会 (http://www.jsn.or.jp/jsn_new/index.html)

必要条件：

- ・小児科専門医であること
- ・5 年継続をして日本腎臓学会の会員であること
- ・日本腎臓学会が指定する研修施設において研修を 3 年以上行っていること
- ・所定の経験症例の記録及び要約の提出が可能であること

a) 専門研修認定施設に必要な認定医：

- ・指導医 1 名以上および認定医 1 名以上が常勤。
- ・身体障害者福祉法の規定による更生医療担当医療機関（腎機能障害）として指定。
- ・医療法で定める特定機能病院、総合病院または日本腎臓学会が認めた透析療法の研修施設として適切な有床施設であること。

b) 名大関連での認定医認定施設と認定医・指導医の人数

- ・認定医認定施設：（日本腎臓学会認定施設）

名古屋大学医学部附属病院、春日井市民病院、岡崎市民病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、愛知県厚生農業組合連合会江南厚生病院、愛知県厚生農業組合連合会安城更生病院、地域医療機能推進機構中京病院、国家公務員共済組合連合会名城病院、名古屋掖済会病院、トヨタ記念病院、公立西知多総合病院

- ・腎臓指導医：

地域医療機能推進機構中京病院 小児科 多代篤史

- ・腎臓専門医：

愛知医科大学病院 小児科 畔柳佳幸

地域医療機能推進機構中京病院 小児科 多代篤史、藤浦直子

公立西知多総合病院 小児科 山田晃郎

c) 名大関連病院ごとの特徴

- ・地域医療機能推進機構中京病院：小児の腎不全を多数例扱う。腎生検も多数例。腹膜透析のフォローアップ症例も多い。
- ・公立西知多総合病院：小児の腎疾患を扱う。腎生検を行い診断および治療も可能。透析・腎移植が必要な症例は中京病院と連携し治療を行う。
- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院：小児の腎疾患を扱うが、病院が小児に関しては 3 次医療機関にあたるため、急性期に伴う腎疾患も多い。

d) 各分野認定医を取得するための過程や取得時期

小児科専門医を取得後、日本腎臓学会が指定する研修施設において 3 年以上研修を施行する。

e) 各分野認定医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

- ・大学院以外のコース：小児科専門医を取得した後に、日本腎臓学会の指定する研修施設で 3 年間の研修を行う。なお、日本腎臓学会の会員歴が 5 年以上必要なため、腎臓を選考すると決めたら小児科の後期研修を行っているうちに日本腎臓学会に入会しておくことが望ましい。

- ・大学院入学コース：在学中は研究に専念し、その後、日本腎臓学会の指定する研修施設で3年間の研修を開始することになる。
- ・社会人大学院コース：日本腎臓学会の指定する研修施設に在籍しながら研究を行うことになる。

<日本小児内分泌学会> (<http://edpex104.bcasj.or.jp/jspe/>)

名称：日本内分泌学会 内分泌代謝科（小児科）専門医

専門医認定学会：日本内分泌学会 (<http://square.umin.ac.jp/endocrine/index.html>)

必要条件（受験資格）

申請時に

- 1) 小児科専門医であること
- 2) 継続3年あるいは通算5年以上内分泌学会員であること
- 3) 認定施設で3年以上研修していること
- 4) 学会発表（または論文）5編（2編は筆頭者であること）

a) 専門研修認定施設に必要な専門医など

- 1) 常勤の指導医が在籍
- 2) 内分泌代謝の専門外来及び病棟
- 3) 内分泌代謝疾患の診療実績（継続5年以上）
- 4) 医学用書館（室）、診療記録管理室
- 5) 研修カリキュラムに基づいた教育

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・専門医認定施設：あいち小児保健医療総合センター、愛知医科大学小児科

・専門医

なごやかこどもクリニック	上條隆司
もりもり小児科	森 理
愛知医科大学小児科	岩山秀之*
岩山小児科	八田容理子
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	西門優一
トヨタ記念病院	加納孝真

・指導医

愛知医科大学小児科	岩山秀之*
-----------	-------

*非常勤医師

c) 名大関連病院ごとの特徴

専門医認定施設ではないが、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、労働者安全福祉機構、名古屋掖済会病院で、小児内分泌疾患の診療（外来および入院）を行っている。

- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児医療センター：低身長、思春期、甲状腺、副甲状腺、副腎、下垂体、糖尿病など内分泌疾患全般を扱っている。外来患者数は年間 300-350 名ほど。当院の特色としては、小児血液・腫瘍科と協力して、Childhood Cancer Survivor (CCS) に対するフォローアップを多く行っている。また、院内内分泌内科と連携して症例検討会に参加することで、暫定的な認定教育施設として専門医の受験資格を得ることも可能となっている。
- ・名古屋掖済会病院 小児科：低身長、糖尿病他小児内分泌疾患の診療
- ・愛知医科大学病院 小児科：入院患者数は年間 90-100 名、外来患者数は年間 450-550 名である。低身長、糖尿病、甲状腺・下垂体・副腎・性腺疾患の診療を行っている。性腺疾患は、非常に専門性の高い手術が必要なため名古屋市立大学小児泌尿器科と連携して治療にあたっている。

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

前記の必要条件を満たせば、内分泌代謝科（小児科）専門医の受験資格を得られる。

小児科専門医取得後あるいは前に、日本内分泌学会の会員となる必要がある。

e) 各分野専門医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

- ・特別なモデルコースは今のところ存在しないが、上記の 4 病院を含んだ名大関連病院で専門医、指導医と連絡を取りながら、小児内分泌疾患を経験するのが一つの方法と考えられる。全国のこども病院や他大学小児科（認定施設小児科等）で小児内分泌を学ぶという選択肢もありうる（国内留学）。
- ・内分泌・遺伝の基礎研究も重要で、希望があれば名大環境医学研究所・発生遺伝部門（林良敬准教授）での研究も可能である（研究生または大学院生）。愛知医科大学小児科でも、遺伝性甲状腺疾患の遺伝子解析や遺伝子治療、商業利用できない特殊なホルモンの分析に関する研究が可能であり、研究生または大学院生を募集している。

<日本小児心身医学会、日本小児精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本思春期青年期精神医学会>

名称：子どものこころ専門医

専門医認定学会：一般社団法人 子どものこころ専門医機構 (<https://kks-kokoro.jp>)

必要条件：子どものこころ専門医は、小児精神医学、小児心身医学を基礎として、子どもの精神疾患、神経発達症（発達障害）、心身症、不登校、虐待など、子どものこころの諸問題に対応する専門医である。子どものこころ専門医は、小児科専門医と精神科専門医の

双方を基盤領域とするサブスペシャリティ専門医として位置づけられており、子どものこころ専門医を取得するための研修は、小児科専門医あるいは精神科専門医取得後、小児科と精神科を横断する形で行われている。2024 年までの暫定制度では小児科専門医を有しており、日本小児心身医学会認定医、日本小児精神神経学会認定医、日本児童青年精神医学会認定医を所持しているか、日本思春期青年期精神医学会から推薦された医師に対して暫定専門医試験の受験資格が与えられている。最終の暫定試験の受験資格は、2020 年 3 月までに 4 学会に入会し、2025 年 3 月までに認定医を取得見込みの方までとなる。2025年度以降の必要条件：

- ・小児科専門医を所持していること
- ・子どものこころ専門医研修施設群における3年以上、36単位以上の研修を修了していること
- ・筆頭者として、子どものこころ診療に関する学会発表2回以上、あるいは論文発表1編以上の研究業績があること

学会発表は日本小児心身医学会、日本小児精神神経学会、日本児童青年精神医学会、日本思春期青年期精神医学会の全国学会・地方会および、その他の子どものこころの診療に関する学会に、筆頭演者として発表されたものに限る。論文発表は、子どものこころ診療に関わる内容で、査読のある雑誌に筆頭著者として投稿、受理されたものに限る。基本領域専門医試験時に提出したものと重複は認めない。

専門医試験：5症例の症例報告審査、筆記試験、口頭試問で評価される。

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・名古屋大学精神科・親と子どもの心療科・小児科研修施設群

連携施設 A 公立陶生病院小児科

岡崎市こども発達医療センター

連携施設 B 愛知県青い鳥医療療育センター小児科

愛知県医療療育総合センター中央病院 小児内科・遺伝心療科

名古屋大学小児科

- ・専門医および指導医

公立陶生病院小児科

加藤英子

岡崎市こども発達医療センター

福本由紀子

c) 名大関連病院ごとの特徴

公立陶生病院小児科：乳幼児期より早期介入することができるのは NICU のある小児科施設の強みである。自閉スペクトラム症(ASD)や注意欠如・多動症(ADHD)などの神経発達症、心身症や不登校、摂食障害、被虐待児など多岐にわたる症例を経験できる。小児科外来に子どものこころセンターを併設しており、心理士による発達検査・知能検査・心理

検査を行ったり、遊戯療法を中心としたリハビリテーション(ST・OT)、医師によるカウンセリングを行ったり、診断書を作成して地域での療育につなげたりしている。名大の親と子ども心療科に週に1回赴き、外来に陪席することで重症例や思春期症例を経験し精神科医の視点やカウンセリングを学ぶことができる。

愛知県青い鳥医療療育センター小児科：愛知県青い鳥医療療育センターは、重症心身障害児者、肢体不自由児者、知的障害児・発達障害児へのサービスを提供する複合施設であり、外来診療・リハビリテーションとともに、医療型障害児入所施設・療養介護事業所(計170床)として診療を行っている。子どものこころに関する疾患は、尾張中部圏域および海部圏域の神経発達症や知的発達症の小児の新患が多く、専門的な知識を持つリハビリテーションのセラピストや臨床心理士、療育の経験豊富な保育士などと協同して診療することができる。外来診療だけでなく、診療圏域の地域療育に出向き保育士や保護者のグループワークに参加したり、院内では神経発達症児の社会生活スキルトレーニング(SST)に参加している保護者のグループワークに参加し、医師として助言する機会も多い。名大親とこどもの心療科関連病院からの非常勤児童精神科医が週に4日外来診療を行っており、対応に苦慮する症例は児童精神科にコンサルテーションしながら診療を行うことができる。入所施設においては、児童相談所からの依頼で、医療的ケアの必要な児童の一時保護・措置入所にも対応しているため、身体疾患を合併した被虐待児の心身の健康管理を行ったり、身体疾患を合併した知的発達症の小児の行動障害への対応なども経験することができる。

愛知県医療療育総合センター中央病院 小児内科・遺伝心療科：染色体異常症や遺伝子疾患、先天異常症候群の診療を行っています。子どものこころ科と連携して、子どものこころ専門医研修を実施することが可能です。

岡崎市こども発達医療センター：岡崎市こども発達医療センターは、自閉スペクトラム症を中心とした神経発達症(主に未就学児)に対する早期評価、早期支援を行っている施設です。経験豊富なリハビリスタッフとも密に連携を取りながら診療をしており、神経発達症の基本的な対応を身に着けることができ、多職種連携についても学ぶことができます。また、保健所や保育園・幼稚園、地域のクリニックなどとの連携や、虐待をはじめとしたハイリスクな家庭への介入などを通して、地域連携についても学ぶことができます。

名古屋大学小児科：小児科神経グループでは小児の発達および神経疾患を主に身体面から専門的に診療しています。その中で合併してくる精神的な問題を児童精神科とともに診療しています。

<日本小児臨床薬理学会> *小児科では専門医制度なし。

名称：日本臨床薬理学会専門医

専門医認定学会：日本臨床薬理学会 (<http://www.jade.dti.ne.jp/~clinphar/>)

必要条件：小児科専門医不要(無関係)

＜日本小児遺伝学会、日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会＞

名称：臨床遺伝専門医

専門医認定学会：日本人類遺伝学会、日本遺伝カウンセリング学会(<http://www.jbmg.jp/>)

必要条件：

（最新情報は上記ホームページを参照）

- ・ 日本人類遺伝学会または日本遺伝カウンセリング学会のどちらかに入会
- ・ 基本領域の学会の専門医（＝小児科学会専門医）を取得

以上の2つを満たした上で、臨床遺伝専門医研修開始登録し、3年間の研修を行う。

a) 専門研修認定施設に必要な要件；

- (1) 専門外来として臨床遺伝医療に関する外来を開設していること。
- (2) 複数の専門医が勤務する独立した臨床遺伝医療部門があり、専門医のうち、少なくとも1名は指導医であること。
- (3) 到達目標に掲げる能力が取得でき、臨床遺伝医療に関する臨床研修が可能であること。
- (4) 臨床遺伝に関する教育的行事を定期的に開催していること。

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

・ 専門医認定施設：

名古屋大学医学部附属病院

愛知県医療療育総合センター

・ 専門医：

名古屋大学医学部附属病院 小児科

加藤太一、深澤佳絵、村松秀城

村松友佳子、山本英範、西尾洋介

愛知県医療療育総合センター 小児内科・遺伝診療科

稲葉美枝、上原朋子、大辻塩見

林深、水野誠司

国立病院機構名古屋医療センター 小児科

服部浩佳

・ 指導医：

名古屋大学医学部附属病院 小児科

村松友佳子

愛知県医療療育総合センター 小児内科・遺伝診療科 水野誠司

c) 名大関連病院ごとの特徴

- ・名古屋大学医学部附属病院は、数多くの診療科がそれぞれに遺伝診療を行っているのが特徴的である。名大方式では各科に遺伝担当医を置き、遺伝カウンセリング室を構成している。臨床遺伝は様々な分野にまたがる領域であることから、月に1回各科合同の遺伝カンファレンスが開催され、症例検討、名大病院の遺伝医療体制の検討などが行われている。名大病院では、各科の専門診療に従事しながら、遺伝医療に関する指導を遺伝カンファレンスに出席して学ぶ体制になっている。また、認定遺伝カウンセラーによる専門的な遺伝カウンセリングも行っており、陪席も可能である。
- ・愛知県医療療育総合センターは中央病院と発達障害研究所を合わせて研修指定施設に認定されている。中央病院は先天異常症候群や遺伝性疾患の症例が豊富である。遺伝カウンセリングも多くの方の来訪者があり専門医取得に必要な経験が積める。また発達障害研究所の遺伝子医療研究部門で分子遺伝学、細胞遺伝学の基礎を学ぶことも可能である。

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

3年間の研修中に以下の条件を満たすこと。

- ・日本人類遺伝学会または日本遺伝カウンセリング学会の学術集会へ2回以上出席
- ・遺伝医学に関わる論文または総説2編もしくは学会発表4回
- ・20例の遺伝診療の要約
- ・遺伝医学セミナー等に参加し、ロールプレイに参加
- ・継続して3年以上、学会員であることおよび小児科専門医であること

専門医認定試験では、口頭試問（遺伝カウンセリングロールプレイ）と筆記試験があります。詳細は臨床遺伝専門医制度委員会ホームページを参照（<http://www.jbmg.jp/index.html>）。

e) 各分野専門医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

研修開始届けを提出後、一定数の遺伝医療の実績を積む必要があります。

- ・上記の認定施設に勤務して臨床遺伝医療に従事する。
- ・上記の施設を研修先として研修届けを提出後、遺伝医学セミナーに参加して幅広い基礎を学び、症例数の多い病院で勤務する。
- ・国内他施設に短期留学する。

※遺伝性疾患を対象とする他のグループの研修や研究と平行して研修・専門医取得が可能です。

<日本小児東洋医学会>

名称：日本東洋医学会専門医

専門医認定学会：日本東洋医学会（<http://www.jsom.or.jp/html/index.htm>）

必要条件：

- ・小児科専門医、日本東洋医学会の認定施設で3年、会員歴3年
- ・50症例の一覧及び、そのうち10症例の臨床報告提出
- ・認定試験（筆記試験、口頭試問）あり

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：規定なし

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・専門医認定施設： 規定なし
- ・専門医：

公立陶生病院 小児科

山口英明

名古屋大学医学部附属病院 小児科

川島 希

＜日本小児救急医学会＞ ＊小児のみの専門医制度なし

名称：救急科専門医

専門医認定学会：日本救急医学会 (<http://www.jaam.jp/index.htm>)

必要条件：

- ・小児科専門医不要
- ・日本専門医機構の基幹施設のプログラムに登録し、基幹施設と連携施設において3年間のプログラムを履修
- ・プログラム制で研修を行うことが適切でない合理的理由（他科基本領域の専門研修を修了しているなど）がある場合にはカリキュラム制（単位制）での研修が選択

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・専門医連携施設：

あいち小児保健医療総合センター

（名古屋大学附属病院他、基幹施設は県内に複数あるが、小児専門で基幹施設となっていないところはない）

- ・専門医：

あいち小児保健医療総合センター

池山由紀

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

救急科専門医は基本領域専門医なので、日本専門医機構の専攻医研修プログラムに応募する必要がある。基幹施設に所属し、その施設の3年間のプログラムを履修する必要がある。ただし、小児科専門医など他科基本領域の専門研修を修了してから救急科領域の専門研修を開始する場合はカリキュラム制を選択することもできる。

※日本小児救急医学会としては、小児救急スペシャルインタレストメンバー認定制度を開始している。： <http://www.convention-access.com/jsep/>

＜日本小児リウマチ学会＞ ＊小児では専門医制度なし

名称：日本リウマチ学会専門医

専門医認定学会：日本リウマチ学会 (<http://www.ryumachi-jp.com/>)

必要条件：

- ・小児科専門医必要
- ・認定教育施設での臨床 5 年、会員歴継続 5 年
- ・筆記試験

認定研修施設：

あいち小児保健医療総合センター、名古屋大学医学部附属病院など

専門医：

あいち小児保健医療総合センター 河辺慎司

＜日本てんかん学会＞ ＊小児・成人で共通

名称：てんかん専門医

専門医認定学会：日本てんかん学会 (<https://jes-jp.org/html/jes/>)

必要条件（抜粋）：

- (1) 現在まで 3 年以上引き続き本学会の正会員であること。
- (2) 現在、てんかん診療に従事していること。
- (3) 研修期間中に 1 回以上日本てんかん学会年次学術集会と日本てんかん学会地方会にそれぞれ出席していること、ならびに申請書にこれらの学会の参加証のコピーを添付すること。
- (4) 種々の病型を含む 50 例の具体的なリストおよび症例詳細記述 5 例を提出すること。
- (5) てんかんの診療に関して本学会の認定した認定研修施設に所属し 3 年以上の研修歴、あるいはそれに相当する研修歴があり、かつ、初期臨床研修期間あるいは基盤学会における専門医研修のための研修期間を含めて計 5 年以上であること。
- (6) 別に示す基盤となる分野の専門医あるいは認定医などを有していること。

a) 専門研修認定施設に必要な認定医：専門医資格を有する 1 名以上の常勤の指導医

b) 名大関連病院での認定研修施設と専門医（2023 年 3 月 31 日）

- ・認定研修施設

名古屋大学医学部附属病院

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院
 愛知県医療療育総合センター中央病院
 安城更生病院
 あいち小児保健医療総合センター
 愛知医科大学

・専門医

名古屋大学医学部附属病院	夏目 淳 城所博之 中田智彦 伊藤祐史
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院	山本啓之
愛知県医療療育総合センター中央病院	丸山幸一 山田桂太郎
あいち小児保健医療総合センター	糸見和也 鈴木基正 牧 祐輝
愛知医科大学 小児科	奥村彰久 倉橋宏和
青い鳥医療療育センター	平岩文子
三河青い鳥医療療育センター	檜原翔
安城更生病院 小児科	久保田哲夫 深沢達也
岡崎市民病院	鈴木健史
豊田市こども発達センター	大野敦子
名古屋掖済会病院	植村文子

c) 名古屋大学関連病院ごとの特徴

- ・名古屋大学附属病院：てんかん患者さんの数は特に多い。West 症候群など難治性てんかんの診療が経験できる。PET、3 テスラ MRI などの神経画像検査や、脳神経外科と協力して長時間ビデオ脳波モニタリング、てんかん外科の研修も可能である。脳とこころの研究センターで脳磁図や脳波・機能的 MRI 同時記録も行っている。2018 年度に愛知県てんかん治療医療連携協議会の拠点機関に指定された。
- ・安城更生病院：てんかんの症例数は多く、周生期障害の合併症としてのてんかんの症例も多い。脳波や神経画像について臨床・研究で実績がある。全般的に偏りなく研修できる可能性がある。
- ・日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院：てんかん、けいれん重積など症例数は多い。
- ・岡崎市民病院：てんかんの患者数は多く、急性脳症に伴うけいれん重積なども多い。脳波や神経画像について臨床・研究で実績がある。全般的に偏りなく研修できる可能性がある。
- ・愛知県医療療育総合センター中央病院：障害児の合併症としてのてんかんが多いが、

それ以外のでんかん診療も経験できる。

- ・青い鳥医療療育センター：障害児に合併するてんかんの患者さんが多い。
- ・あいち小児保健医療総合センター：てんかんの患者さんは多い。
- ・愛知医科大学病院：てんかんセンターが設立され新生児から成人までシームレスな診療を行っている。また、外科的治療にも対応できる。MRI の先進的な解析も可能である。また、遺伝子解析を用いる研究も行っている。

d) 各分野認定医を取得するための過程や取得時期

小児科専門医を取得後、1 年の認定施設での研修を含め、2～3 年程度名古屋大学医学部附属病院か、上記の研修に適した病院でのトレーニングが必要であると思われる。認定医取得に関しては、病院により症例の内容には差があるため、2・3 カ所の研修施設で診療に従事するのが理想であろう。

e) 各分野認定医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース

- ・大学院に進学する場合：最低 1 年は名古屋大学医学部附属病院での臨床業務に従事する。代務で神経外来を継続的に担当する。
- ・大学院に進学しない場合：上記研修に適した病院で 3 年研修するか、名古屋大学医学部附属病院で医員として臨床業務を行う。

<日本臨床神経生理学会> ＊小児・成人で共通

名称：日本臨床神経生理学会専門医 (<http://jscn.umin.ac.jp/>)

専門医認定学会：日本臨床神経生理学会

必要条件（抜粋）：

- ・臨床経験が 5 年以上（初期臨床研修期間の 2 年間を含む）
- ・日本臨床神経生理学会会員歴を 3 年以上有すること
- ・脳波あるいは筋電図・神経伝導の臨床的検査・所見診断に 3 年以上従事した経験をもつこと
- ・日本臨床神経生理学会主催の学術集会、技術講習会および関連講習会、または関連学会への参加が 3 年以内に 2 回以上あること
- ・認定研修施設あるいは認定委員会がみとめる研究施設における 1 年以上の研修歴を有すること

a) 専門研修認定施設に必要な認定医：専門医：指導医が 1 名以上常勤

b) 名大関連での専門医（2023 年 3 月 31 日）

- ・専門医

名古屋大学医学部附属病院
あいち小児保健医療総合センター
日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院

夏目 淳 城所博之 山本啓之
糸見和也
竹内智哉

＜日本透析医学会＞

名称：日本透析医学会専門医

専門医認定学会：日本透析医学会 (<http://www.jsdt.or.jp/>)

必要条件：

- ・小児科専門医であること
 - ・3年以上継続して日本透析医学会の会員であること
 - ・日本透析医学会認定施設・教育関連施設において3年以上、日本透析医学会研修カリキュラムに基づいた透析療法に関する臨床研修を終了していること
 - ・診療実績として、所定の経験症例の記録及び要約の提出が可能であること
 - ・研究業績として、日本透析医学会年次学術集会への参加が1回以上、筆頭者としての血液浄化法に関する発表1件以上、および原著（筆頭者でなくてよい）1編以上が必要である
- a) 専門研修認定施設に必要な専門医：指導医1名以上および専門医1名以上が常勤
- b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数：なし
- c) 名大関連病院ごとの特徴
- ・地域医療機能推進機構中京病院：成人領域では血液透析症例数は非常に多い。小児では腹膜透析を中心に透析医療を行っている。
- e) 各分野認定医を取得する制度を構築する上での考えられるモデルコース
- ・大学院以外のコース：小児科専門医を取得した後に、日本透析医学会認定施設・教育関連施設で3年間の研修を行う。
 - ・大学院入学コース：在学中は研究に専念し、その後、日本透析医学会認定施設・教育関連施設で3年間の研修を開始することになる。
 - ・社会人大学院コース：日本透析医学会認定施設・教育関連施設に在籍しながら研究を行うことになる。

＜日本移植学会＞＊小児・成人で共通

名称：日本移植学会移植認定医

専門医認定学会：日本移植学会

必要条件：

- ・移植医療に必要な経験と学識技術を修得し、臓器提供推進の重要性を理解し、かつ医療倫理を遵守していること。臨床移植医の場合は、通算3年以上の移植医療の臨床修練を行っていること。基礎移植医(病理学、免疫学)の場合は3年以上の研究歴を持つこと。

1) 臨床経験

①腎臓移植領域 10例以上

②肝臓移植領域 10例以上

③腎臓・肝臓移植以外の領域(心臓、肺、膵臓、小腸等の移植領域) 3例以上

(臨床経験は、主治医・術者を問わずレシピエント移植手術、ドナー臓器摘出手術、脳死ドナー管理の経験、メディカルコンサルタントとしての経験および内科医としての移植、手術の術前・術後管理経験などを全て含む。また、初期研修期間の臨床経験は含まない)

2) 業績 第一著者一編を含む論文または学会抄録3編以上

- ・評議員1名による推薦が必要。
- ・5年以内に日本移植学会総会に1回以上の参加、かつ日本移植学会主催教育セミナーに1回以上の参加があること。

a) 専門研修認定施設に必要な認定医：規定なし

b) 名大関連での認定医認定施設と認定医・指導医の人数

- ・認定医：公立西知多総合病院 小児科 山田晃郎

＜日本臨床腎移植学会＞＊小児・成人で共通

名称：腎移植認定医

専門医認定学会：日本臨床腎移植学会

必要条件：

- ・卒後6年以上で日本小児科学会専門医の資格を有すること
- ・3年以上引き続いて日本臨床腎移植学会の会員であること
 - ・学術集会に1回以上の参加かつ学術集会教育セミナーに1回(2単位)以上の参加があること
 - ・内科系は通算1年以上臨床腎移植医療の内科的修練を行い、必要な経験と学識技術を修得する
 - ・業績として臨床腎移植関連の学会・研究会の発表または論文または著書があること

a) 専門研修認定施設に必要な認定医：規定なし

b) 名大関連での認定医認定施設と認定医・指導医の人数

・認定医：なし

c) 名大関連病院ごとの特徴

・地域医療機能推進機構中京病院：関連病院では小児の腎移植を扱う唯一の施設。

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

小児科専門医を取得後、1年以上の研修、実際は症例実績記録提出のため少なくとも15～20例程の腎移植例の経験が必要であり3～5年以上の研修が必要である。

<ICD制度協議会（日本小児感染症学会など16学会・研究会で構成）>

名称：ICD（Infection Control Doctor）

認定組織：ICD制度協議会（<http://www.icdjc.jp/index.html>）

必要条件：

次の3条件を全て満たす場合、ICDに応募することができる。

- ① 協議会に加盟するいずれかの学会の会員であること（会員歴の長さは問わない）。
- ② 医師歴が5年以上の医師または博士号を取得後5年以上のPhDで、病院感染対策に係わる活動実績（感染症対策委員歴、講習会出席、論文発表）があり、所属施設長の推薦があること。
- ③ 所属学会からの推薦があること。

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：規定なし

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

・ICD：

名古屋大学大学院 ウイルス学

木村 宏

名古屋大学医学部附属病院 小児科

鳥居ゆか 鈴木高子

奥村俊彦 山口慎

江南厚生病院 こども医療センター

尾崎隆男 西村直子

後藤研誠

名鉄病院 予防接種センター

宮津光伸

地域医療機能推進機構中京病院 小児科

柴田元博

トヨタ記念病院 小児科

原 紳也

名古屋通信病院 小児科	佐野雅子
公立陶生病院 小児科	家田訓子 大江英之
中津川市民病院 小児科	安藤秀男 木戸真二
岡崎市民病院 小児科	辻 健史
名古屋掖済会病院 小児科	西川和夫
あいち小児保健医療総合センター 感染症科	河邊慎司

日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院 小児科	吉田奈央
安城更生病院	鈴木道雄

<日本臨床腫瘍学会> ※2006 年度に第 1 回専門医試験が開催

名称：がん薬物療法専門医

専門医認定学会：日本臨床腫瘍学会 (<http://jsmo.umin.jp/>)

必要条件：

- ・小児科専門医
- ・学会認定の研修施設にて 2 年の臨床研修
- ・がん治療に関する研究活動 5 年、がん治療に関する業績
- ・日本臨床腫瘍学会の会員歴 2 年

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：

- ・暫定指導医 2 名、または、暫定指導医 1 名と専門医 1 名の常勤
- ・放射線治療装置、施設 IRB、病理学会認定病理専門医の勤務
- ・悪性腫瘍患者が常時 20 名以上入院、年間がんの薬物療法が 50 例以上

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・専門医認定施設：(日本臨床腫瘍学会認定の名大小児科関連病院)
国立病院機構名古屋医療センター、地域医療機能推進機構中京病院、公立陶生病院、名古屋掖済会病院

<日本集中治療医学会> *小児・成人で共通

名称：集中治療専門医

専門医認定学会：日本集中治療医学会 (<http://www.jsicm.org/>)

必要条件：(抜粋)

- ・日本集中治療医学会の会員であること

- ・研修開始日から機構認定の研修施設（病院）に在籍し、勤務すること
- ・研修開始前に日本専門医機構の基本領域（救急科、麻酔科、小児科、内科）の研修プログラムが修了している、または4領域の専門医（認定内科医を含む）を取得していること
- ・日本集中治療医学会学術集会(全国大会・支部)に2回以上参加する
- ・日本集中治療医学会学術集会(全国大会・支部)に筆頭演者として参加する（1題以上）
- ・査読採択制の医学雑誌へ筆頭著者もしくは論文責任者として1編以上の論文を報告する
- ・経験症例レポートの提出、筆記試験あり

a) 専門研修認定施設に必要な専門医：集中治療科専門医

b) 名大関連での専門医認定施設と専門医・指導医の人数

- ・専門研修施設：

あいち小児保健医療総合センター

（名古屋大学附属病院他、研修施設は複数あるが、小児専門で研修可能なのは県内ではあいち小児センターのみ）

- ・専門医：

名古屋大学医学部附属病院

沼口 敦

あいち小児保健医療総合センター

池山貴也

d) 各分野専門医を取得するための過程や取得時期

小児科専攻医の研修プログラム終了後、集中治療科専門研修施設に勤務し、その施設で?研修カリキュラム開始申請を行う必要がある。研修期間は最短2年、最長5年。その専門研修中に経験すべき実施項目、学会発表等を行い専門医試験を受験する。

<日本小児栄養消化器肝臓学会>

名称：日本小児栄養消化器肝臓学会認定医 (<https://www.jspghan.org/>)

専門医認定学会：日本小児栄養消化器肝臓学会

必要条件（抜粋）：

- ・ 医師免許を取得してから5年以上が経過した医師であること
- ・ 専門医制度評価・認定医機構の定める基本領域の専門医であること
- ・ 本学会の会員歴が通算3年以上であり、申請時に会員であること
- ・ 所定の認定医申請手続きを行い、認定医委員会の審査に合格すること

a) 専門研修認定施設に必要な認定医：規定なし

b) 名大関連での認定医

- ・ 認定医

愛知医科大学病院 小児科

本間 仁

あいち小児保健医療総合センター 感染免疫科

阿部 直紀

c) 名大関連病院ごとの特徴

- ・ 愛知医科大学病院：小児消化器専門外来を有する数少ない施設。小児消化器疾患の診療に加え、小児の上下部消化管内視鏡検査や小腸カプセル内視鏡検査、上部消化管造影検査、注腸造影検査、24 時間 pH モニタリング検査、超音波ガイド下肝生検などの検査も行っている。

あいち小児保健医療総合センター：感染免疫科にて潰瘍性大腸炎やクローン病などの小児炎症性腸疾患の診療を行っている。

VIII. サブスペシャリティー技能習得について

小児科研修終了後（小児科専門医取得後）には、小児科の中の各専門分野サブスペシャリティーの技能習得も可能である。サブスペシャリティーの技能を習得する方法には大きく分けて、一般大学院コース、社会人大学院コース、専門医取得を目標とした研修コースがある。分野によって異なるが、大学院コースでもその間に専門の臨床経験を積むことで各分野の専門医を取得することが可能である。さらに国内、国外への留学も可能である。身につけた専門技能は、関連病院の専門診療や大学の教員として生かされていくことになる。

1) 一般大学院コース

従来 of 大学院に入学するコースである。大学院に在籍して研究を行う。基礎研究室における研究や国内留学をして研究を行うことも指導教員との相談で可能な場合がある。

2) 社会人大学院コース

今までの論文博士に代わるコースである。関連病院勤務や大学非常勤医員として働きながら大学院に入学する。1 年以内とはなるが研究に専念する期間も指導教員との相談で考慮される。

3) 専門医取得を目標とした大学院以外の研修コース

関連病院に勤務しながら専門医および専門技能取得を目指すコースである。関連病院にも専門診療を必要とする患者さんは多く、各分野の専門医も多くいる。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12 年
大学院コース											
研修医	小児科	大学 病院	初期 赴任	大学院							
社会人大学院コース											
研修医	小児科	大学 病院	初期 赴任	社会人大学院							
大学院以外のコース											
研修医	小児科	大学 病院	初期 赴任	専門医研修							

各分野のサブスペシャリティー技能を習得するには、それぞれを専門とする指導者と相談をして、効率よく研修をする必要がある。各専門分野のモデルコースなどについては次頁以降に示す。

<血液・腫瘍分野>

血液腫瘍性疾患の治療施設は、全国的にも大学附属病院や小児病院などの専門施設に限定されており、名古屋大学小児科の関連においても、名古屋大学医学部附属病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、名古屋医療センターがそれにあたる。血液腫瘍学の特徴として、分子生物学や免疫学などの基礎医学の理解が、臨床に直結することから、一般、社会人コースを問わず、大学院に進学するのが望ましい。

1) 一般大学院コース

名大病院研修を終了後、上記の2施設あるいは、他の関連病院において0.5～1年間の研修を終了後、大学院に入学する。名大の関連病院外で研修し、大学院入学を希望する場合の入学時期は、本人の希望に沿う。大学院入学後は、それまでの血液腫瘍性疾患の診療経験に応じて、0.5～1年間、造血幹細胞移植の診療経験を含め、専門分野の診療に従事する。後半の3年間は、病棟、外来業務は免除で研究に専念する。大学病院に在籍中の臨床経験で、診療実績を満たすことは十分可能であることから、学位と専門医を同時に取得することをめざす。大学院卒業後は、専門施設での診療に従事するほか、海外留学、専門施設での経験をへて、教員や研究職への道が開かれる。

2) 社会人大学院コース

社会人大学院の入学時期は、一般大学院入学コースと同様である。名古屋大学医学部附属病院においては、非常勤医員のポストを得ることができる。日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、名古屋医療センターでポストがあれば、籍をおいたま

ま、大学院に入学することも可能である。また、条件が許せば、3施設をローテートすることもありうる。名古屋大学医学部附属病院では、一般大学院コースと同様に種々のセミナーをはじめ、教育的機会が与えられる。また原則として、病棟の診療に従事するが、4年間のうち、一定の期間は研究に専念することも考慮する。大学院在籍中の診療経験をもとに学位論文を作成するとともに、十分な診療実績が得られることから、専門医の取得も可能である。大学院修了後は、専門施設での診療に従事するほか、専門性をもった小児科医として地域医療に従事する道が開かれている。また、本人の希望によっては一般大学院コースと同様に、海外留学や、教員への道も開かれている。

＜アレルギー分野＞

アレルギー学は、最高水準の免疫学と、食品化学、栄養学、環境衛生学など幅広い専門分野の研究成果を背景として発展してきた。アレルギー疾患の標準的な治療方針に関する各種ガイドラインは整備されてきたが、専門医に求められる診療は、それを単純に患者に適用することではない。患者が抱える素朴な、しかし核心的な疑問に答えていくためには、免疫学・アレルギー学の最新知識を持って、根拠が不明確で「伝統的な」指導方針に常に疑問をもち、自分の力でそれを解決していく力量が求められる。

アレルギーは生活に密着した疾患である。保育園や学校といった地域の生活基盤に目を向けて、そのレベル向上のために社会的な啓発活動を担うことも専門医の使命であり、やり甲斐でもある。

小児アレルギー専門コースでは、教育施設で約2年間の臨床研修を行うことを軸とするが、単にその施設の診療方針を覚えるのではなく、可能であれば他のアレルギー専門施設に国内留学、あるいは基礎医学的な研究期間を持って視野を広げ、常に自分の経験や知識を批判的に見直す力を養成したい。

1) 一般大学院コース

学内に教員が不在のため、選択できない。同門の教官が在籍する他大学への入学は選択可能である。

2) 社会人大学院コース

教授の許可があれば、学外の教育施設（あいち小児保健医療総合センターなどに身分を置き、約2年間の臨床研究を行った後、1～2年間名古屋大学内又は学外の研究施設で基礎研究に専念する。意欲があれば、海外留学について相談に応じる。

3) 連携大学院コース

あいち小児保健医療総合センターが名古屋大学の連携大学院（総合小児医療学講座）の指定をうけたことから、この連携大学院に入学して、あいち小児保健医療総合センターを中心とした臨床研究によって学位を取得することも可能である。

4) 大学院以外のコース

小児科後期研修を終了した後、教育施設に在籍して臨床研修を受ける。できれば、国内

留学を含めて複数の教育施設で経験を積むことが望ましい。

＜感染症分野＞

小児感染症学会は、認定指導医（専門医）育成のための研修プログラムを2017より開始し、研修修了者を対象とした第1回の認定指導医（専門医）試験を2020年に行った。名古屋大学小児科の関連では3施設が研修施設として認定されている。本制度により小児感染症診療の知識と実践に優れた医師の育成が期待されている。一方で、感染症学会が認定する専門医制度があり、主として内科感染症医を対象としている側面はあるが、感染症分野での専門家として取得する意義がある。名古屋大学附属病院は認定研修施設であるため、大学院期間も含む3年間の研修により専門医受験資格を得ることができる。次に、Infection Control Doctor (ICD) は専門医ではないが、病院内の感染対策業務を行ういわゆる Infection Control Team (ICT) として活動するのに求められる資格であり、取得が勧められる。ICD には小児感染症分野において、ウイルス感染症のみならず、細菌感染症も含めた幅広い知識が要求される。ウイルス感染症は、非常に幅の広い疾患であるため、他の疾患の専門グループや他科との連携が欠かせない分野である。そのため、専門的な治療手技は持たないかもしれないが、活躍の場は非常に広い。ウイルス疾患が如何に生じるのか、なぜその診断法を用いるのか、どうしてこの治療を適用するのか、などの臨床的疑問に対応するためには、感染免疫の基礎的理解が非常に重要と考える。将来、感染免疫研究に専念したいという者はもちろんのこと、優秀な臨床医を目指す者にこそ、分子生物学や細胞生物学・免疫学などの基礎的研究は有用である。よって、大学院に進学し一定期間基礎的研究すること薦めている。一般大学院・社会人大学院、いずれのコースも可能である。

1) 一般大学院コース

名大病院研修を終了後であればいつでもよい。名古屋大学大学院ウイルス学講座での基礎的な研究も可能である。当研究室では、ほぼ毎年大学院入学者が存在し、大学院卒業後は、積極的に海外留学も奨励している。現在、研究機関・施設で教員・部長として働くものも多い。全般的に、専門的知識・経験を生かして感染症臨床に従事するあるいは臨床研究を行うなど幅広い活動をしている。

2) 社会人大学院コース

入学時期は一般大学院コースと同様である。感染症研究室関連臨床施設（あいち小児保健医療総合センター感染免疫科など）で臨床に従事しながら、臨床ウイルス学研究を行う。一定期間（少なくとも1年間）はいずれかの研究施設で基礎的研究を行うことが望ましい。

＜神経分野＞

小児神経疾患はあらゆる病院の入院患者さんや外来において経験するが、詳しく小児神経学を学ぶためには名古屋大学病院や基幹施設である日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、安城更生病院、岡崎市民病院、あいち小児保健医療総合センターなど、さ

らには障害児を専門に診療する愛知県医療療育総合センター、青い鳥医療療育センター、豊田市こども発達センターにおいて、指導者のもとで経験を積むことが望ましい。名大病院研修終了後は大きく分けて以下の3つのモデルコースが考えられる。

1) 一般大学院コース

大学院生として名古屋大学で専門研修、研究を開始する場合、最初の1年間は大学の神経外来および入院患者の診療に従事することで、小児神経学の臨床経験を積み研究の準備も行う。同時期に脳波判読などの専門技能習得も行う。その後は臨床業務を免除され研究に専念することができるが、臨床研究に関連する外来や病棟業務を継続することを希望する場合は継続も可能である。また学外の研究施設で研究を行うことも可能である。現在、岡崎の生理学研究所における神経生理学的研究、愛知県医療療育総合センター発達障害研究所や福岡大学で小児神経疾患の遺伝子研究を行っている者がいる。小児神経学会専門医取得のための臨床経験は大学院中にも積むことが可能である。卒業後は基幹病院や専門施設での診療、国外留学も可能である。

2) 社会人大学院コース

社会人大学院に入学した場合、大学の医員として、または関連病院に勤務し小児神経臨床研修を行いながら大学院生として臨床研究も行う。前半を関連病院、後半を大学で医員として勤務することも可能である。関連病院に勤務する場合、可能であれば小児神経の指導者のいる基幹病院で臨床研究を行うことを考慮する。研究をまとめるため1年以下の研究に専念する期間も考慮される。1)のコースと同様に専門医取得のための臨床経験を積むことが可能である。卒後は1)と同様に基幹病院や専門施設での診療、国外留学などが可能である。

3) 大学院以外のコース

学位よりも専門医の取得に主眼を置いたコースである。大学の非常勤医員として、または関連病院に勤務し小児神経の臨床研修を行いながら日本小児神経学会専門医取得を目指す。同専門医取得には連続して5年以上の会員歴、症例要約、学会出席や発表、論文執筆、小児科学会など基本領域の学会の専門医などが必要であるが、これらは大学病院や基幹病院での診療、研修で取得可能である。いずれのコースも、てんかんの診療、研究を行い日本てんかん学会の認定医（臨床専門医）を取得することも有用である。

<周産期・新生児分野>

周産期専門医（新生児）は小児科専門医取得後に研修を開始することができるため、大学病院研修終了後に速やかに小児科専門医を取得することが望ましい。周産期専門医（新生児）の研修期間は3年である。名古屋大学小児科関連施設では、名古屋大学医学部附属病院、日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院、大垣市民病院、安城更生病院が周産期専門医（新生児）の研修における基幹施設である。また、公立陶生病院、トヨタ記念病院、岡崎市民病院、江南厚生病院は研修指定施設である。

1) 一般大学院コース

基本的に病棟業務は行わずに、研究に専念するが、専門医研修を開始する意味で、大学院 4 年間で最初の 0.5 年間および最後の 0.5 年間は、病棟勤務を行うこととする。大学院修後は関連の研修施設へ異動をして、研修を継続する。大学院修了後に、国内外の研究施設での研究を希望する場合は、留学を優先として、留学後に研修の再開を考慮する。

2) 社会人大学院コース

学会の指定する研修施設に籍を置きながら、名古屋大学新生児関連施設研究ネットワークのシステムに基づき、臨床研究を開始する。基本的に大学院 4 年生で、大学に籍を移して、研究のまとめを行うこととする。

3) 大学院以外のコース

大学病院研修終了後または初期赴任後（小児科専門医取得後）に学会の指定する研修基幹施設、研修指定施設へ異動をし、研修を開始する。

<免疫分野>

1) 一般大学院入学コース

原発性免疫不全症候群の理解のためには基礎免疫学の知識が必須であること。疾患の診断、病態解明を行なうためには細胞生物学的、分子生物学的研究技術の修得が必要であること。稀な疾患であり、ほとんどの症例が大学に集積していることなどから大学院入学により知識、技能を習得することを強く勧める。大学院卒業後は希望により海外留学も可能である。

2) 社会人大学院コース

上記理由により大学院以外のコースは基本的には勧めない。

3) 大学院以外のコース

上記理由により大学院以外のコースは基本的には勧めない。

<循環器分野>

1) 一般大学院コース

臨床上の視点も重要であり大学院 4 年間のうち 6 ヶ月～1 年間は時間内の病棟業務は行うものとする。関連外施設での研究を希望する場合その目的などと照らし合わせて許可を得られることを条件とする。大学院修了後は関連の専門施設へ異動して研修を継続する。大学院修了後の国内外での研究の希望がある場合も相談に応じる。

2) 社会人大学院コース

関連の専門施設において研修を行いながら臨床研究を開始する。途中で約 2 年大学院に籍を移して研究のまとめを行う。

3) 大学院以外のコース

大学病院研修終了後または初期赴任後に関連の専門施設での研修を行う。

<腎臓分野>

単に小児の腎・尿路疾患のみでなく、広く腎・尿路の生理・病態に関する知識が必要となる。体液

(水・電解質)、高血圧(血圧調節)、慢性腎不全(保存期を含む)、急性腎不全、透析療法、腎移植なども重要な事項である。更には、成人の腎疾患(糖尿痛腎症や膜性腎症など)に対する一般的な知識も必要であるが、学会や研究会への参加などによって習得可能である。並行して(ほぼ同時期に)日本透析医学会専門医を取得するための研修も、在籍する研修施設によっては可能である。

1) 一般大学院入学コース

在学中は研究に専念し、その後、日本腎臓学会の指定する研修施設で3年間の研修を開始することになる。

2) 社会人大学院コース

日本腎臓学会の指定する研修施設に在籍しながら研究を行うことになる。

3) 大学院以外のコース

小児科専門医を取得した後に、日本腎臓学会の指定する研修施設で3年間の研修を行う。なお、日本腎臓学会の全点歴が5年以上必要であるため、腎臓を専攻すると決めたら小児科の後期研修を行っているうちに日本腎臓学会へ入会しておくことが望ましい。

<内分泌分野>

大学小児科医局内に専門医・指導医資格を有する教員はいない。小児科研修終了後、専門医認定施設で3年間の専門研修を行い、専門医および専門技能取得を目指す。本人の希望によっては、他の小児内分泌専門施設に国内留学、あるいは大学院進学または海外留学をして小児内分泌の研究を行うことも可能である。指導医を目指す場合は、指導医申請にあたり連続10年以上、日本内分泌学会の会員であることが必要なため、早めに入会することが望ましい。

1) 一般大学院入学コース

学内に教員が不在のため、選択できない。

2) 社会人大学院コース

学外の専門医認定施設(あいち小児保健医療総合センター内分泌代謝科など)で、約2年間の臨床研究を行った後、1-2年間、名古屋大学内又は学外の研究施設で基礎研究に専念する。

3) 大学院以外のコース

小児科後期研修を終了した後、専門医認定施設に在籍して専門研修を受ける。できれば、国内留学を含めて複数の専門医認定施設で経験を積むことが望ましい。

<代謝分野>

大学に教員のいない現状では研修は非常に困難である。先天代謝異常症に興味をもたれた時には、分子遺伝学的研究の可能な国内他施設で研修を行うことになる。

<遺伝分野>

研修開始届けを提出後、一定数の遺伝診療の経験を積むことが必須である。モデルコースとしては症例数の多い病院(主に愛知県医療療育総合センター中央病院)で診療の実績を積む臨床中心のコースと、大学院で分子遺伝学的研究に従事しながら非常勤で臨床経験

を積む方法に大別される。

- 1) 愛知県医療療育総合センター中央病院に勤務して臨床遺伝診療に従事する。
- 2) 愛知県医療療育総合センターまたは名古屋大学医学部附属病院に研修届けを提出後、遺伝医学セミナーに参加してポイントをためながら症例数の多い病院で勤務する。
- 3) 遺伝性疾患を対象とする他のグループの研究に従事しながら、平行して愛知県医療療育総合センターまたは名古屋大学医学部附属病院に研修届けを提出し、遺伝医学セミナーに毎年参加してポイントを増やしつつ、症例数の多い病院に非常勤として勤務する。遺伝性疾患を対象とする他グループで研究を行いながら臨床遺伝専門医を取得することは十分可能である。

<救急・集中治療分野>

愛知県内では、小児救命救急センター（小児集中治療室（PICU）16床含む）が稼働しており、認定施設であるあいち小児保健医療総合センターで体系的な研修が可能である。大学内他部門（救急・内科系集中治療部など）は小児専門ではないが、専門医を有する教員がいる。小児科研修終了後、3年間の専門研修を行い十分な臨床経験積み、専門医および専門技能取得を目指す。

本人の希望によっては大学院進学または海外留学をして研究を行うことも推奨される。

1) 一般大学院入学コース

学内に教員が不在のため、現在は選択が難しい。

2) 社会人大学院コース

学外の専門医認定施設（あいち小児保健医療総合センター救急科・集中治療科など）で、約2年間の臨床研究を行った後、1-2年間、名古屋大学内又は学外の研究施設で研究に専念する。

3) 大学院以外のコース

小児科後期研修を終了した後、専門医認定施設に在籍して専門研修を受ける。意欲があれば国内留学、海外での研究留学などの相談に応じる。

<子どものこころ診療分野>

小児精神医学、小児心身医学を基礎として、子どもの精神疾患、神経発達症（発達障害）、心身症、不登校、虐待など、子どものこころの諸問題に対応する分野である。

子どものこころ専門医は、小児科専門医と精神科専門医の双方を基盤領域とするサブスペシャリティ専門医として位置づけられており、子どものこころ専門医を取得するための研修は、小児科専門医取得後、名古屋大学小児科関連病院でも親と子どもの心療科の研修施設群として小児科と精神科を横断する形で研修することができる。

子どものこころ専門医研修施設群（名古屋大学・愛知県青い鳥医療療育センター・愛知県医療療育総合センター中央病院・公立陶生病院・岡崎市こども発達医療センター）における3年以上、36単位以上の研修を修了していること、筆頭者として子どものこころ診療に関する学会発表2回以上、あるいは論文発表1編以上の研究業績があることが子どものこ

ろ専門医取得の必要条件である。